



服部文庫
117
449
#3



117
449
3

○安女目ろく

注粟 合草 雙鶴アヒ 紫陽子
 蛭 食應 白馬 岡加 赤裳 曉
 縣石 化 化之野 東 暑 四阿
 震 震走 嵐 有恆 顯 争
 藍 凌 葛蒲 天 詞 牧 夕 夫人
 少人 尼 曙 忘角 樗 鷓鴣
 扇 滄 葵 あこめ あこや 玉 朝
 麻 津芽 麻衣 橙 秋津洲 高
 秋宮 秋少 鮎 雨 酒 芦 園
 酒代 馬醉木 あまの神

○追加
 朱首保舟 あまきまら あまの
 津砂 畦 禎



安

日本死和名抄より河和と訓ス
兩九の系成下 古事記の勢子
河和と云ふは流の勢なり 安福より云ふ
と云ふは流の勢なり といふ要更死より
區を河和と云ふに思ふに云ふこと云又一ツ
あり區と云ふ

●滝、常波、由良、比人、思川、和富海
老浦、以谷、大井川、谷、忠園

●岩根、仲の女、伊賀海、海生、大海

一粟

林、刈も林前、春、と云と云
い、候、さ、各、候、下、今、も、河、も、米
の、さ、此、時、と、よ、好、一、飛、も、若、つ、又、木、さ、よ、あ
禾、ハ、稻、黍、稷、の、通、名、な、れ、も、稷、と、上、穀、の、長、と

●若花、神社、早ら、いぬい、止日野
足下、若根心

●合、合、す、り、し、し、句、句、は、い

歌、兼、占、神、玉、笛、花、笛、貝、麩
津、春、傳、也、考、夏、暑

●合、合、す、り、し、し、句、句、は、い

一蛇

●岩根、仲の女、伊賀海、海生、大海

夫是の管の類に多し... 地貝の居る川...
 万大の地を以て地を名づく... 凡れ川...

一 列鳥

冬水田し鴨... 安物も... 列鳥...

月なき夜、芦、入口、浜田の水田、
 雞波、陸田、竹、馬、夕、海岸、
 海、舟、志、夢、の、舟、地、
 明海、舟、志、地、水、山川、岩、
 尾上、村、地、舟、舟、晚、空、

万習の... 舟... 舟... 舟...
 夫は... 舟... 舟... 舟...
 夫は... 舟... 舟... 舟...
 夫は... 舟... 舟... 舟...

一 紫陽草

二色... 四色... の...
 名... 七... 色... 味... 狭... 藍...

和名抄、あつさ... 紫陽花...
 ● 秋野、色、庭、秋、夏月、昔、昔、
 三つ、昔、昔、昔、昔、昔、昔、

味... 是は... 人... 川... 舟... 舟...
 ● 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...
 ● 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

一 蟻

夏... あつさ... 舟... 舟...
 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...
 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...
 ● 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

● 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

兩位、 荒之位、 鬼目、 七曲の、 乃、
様

●七曲にまねの流あきしをきりてやうやきん
度せうの七曲の馬を我邦に送つて左衣の位子
個を画し流んと申すやうに人よあるこ
の先入をせぬる言ひは空しく候へ事をつけ
入らば左衣の馬をばりて多を費さる日本人の
男も王をばりて故んとしひりり早ひとまぬ
とし申す候南のゆゆしと

●此等や此のまねの流あきしをきりてやうやきん

●世傳に坊々の城垣まじり言ひは上階の位子
敷の位子に地名としは海と後丹とよ
同し七曲東迄あるとよふ●言ひを俗
よりして一語のめあきしと

▲^社横字乃痛味 醫及己春声
雲凍核盗采 兩舞燈活疏

一 知食應

人偏味ありしはれしをきりて
王威い人るとを神代記に傳
とよのりぬ友るとをきりての言ひ一語あり
ありしとよむ物とらに食やありしとよむ
言通てうけ物とありしとよむけるしとよむ
法被の衣に板すえとよむと右の詞にあり
つよまられとよむ同しありしとよむとよむ
容態のしとよむ

●管弦、 鞠、 端角、 庭座、 二の友の、
一の朝声、 格守り、 美盛、 月、 友
瓶の、 酒、 香

●^{とよ}言ひのりぬ友るとをきりての言ひ一語あり
行年ありしとよむ物とらに食やありしとよむ
年を承の言ひとよむ人とよむとよむ
いあるしとよむけるしとよむけるしとよむ
とよむけるしとよむけるしとよむけるしとよむ
とよむけるしとよむけるしとよむけるしとよむ
とよむけるしとよむけるしとよむけるしとよむ
とよむけるしとよむけるしとよむけるしとよむ

一 岡伽

釈迦様かゝり水田の用曉之庭
少のなきと云ふ開るしは
内あつらふと云ふけては曉一のりし
漢言釋迦婆羅門香江にけし
又盛香水盃盃之縁名と云ふ
あはれは時を秋と云ふ

●花興、くさく、法師、室、五、行

は俳、素門、五、比元、横川、舟中

荒磯舟、松つむ、苔杖、山、松尾

梅花、架極子、山、曉、聖隆社

言物、まのあ

夫知れあはれ松つむの秋思をなれり
あはれは時を秋と云ふ
夫あはれ松つむの秋思をなれり
あはれは時を秋と云ふ

一 赤裳

古事記あつともよむ女衣の袴
なり一原あつともよむ
あつともよむあつともよむ

●津、西の上、口、松中、髪あつともよむ、若狭子

長、長、長、長、長、長、長、長

つ、一、岡、松浦川、鮎釣

夫重松つむの秋思をなれり
あはれは時を秋と云ふ
夫あはれ松つむの秋思をなれり
あはれは時を秋と云ふ

一 曉

日事記、進明とあるきと列ス
一原子旭時を列せりあつともよむ
あつともよむあつともよむ
比道行世降と云ふ

●思昔、思昔、思昔、思昔、思昔、思昔

細き灯、俚大海、あつともよむ、松つむ

行、法、法、法、法、法、法、法

松凡、揚衣、列、若狭子、松のまわり

崎のわら、山、山、山、山、山、山、山

千梅、八、八、八、八、八、八、八

灯、豆、豆、豆、豆、豆、豆、豆

の諸國をめぐるといふ地國に吾妻郡ありて
千代と吾妻川と年又古事記にわづらひ足
柄坂をのりて次早死君と廢相模國足
柄路用宮持途といふ万葉

皇孫の夜にこころあつたつらざとて
車路のやちいさしとて衣部の事とて
凡そ物とては後少車路のせしめ搦まといふ
車路の中あつたつらざとて法とていふれ
東宮の事といふ事といふ事といふ事といふ事

一 暑

熱とあつたつらざとていふ物
あつたつらざといふ事といふ事といふ事
あつたつらざといふ事といふ事といふ事
あつたつらざといふ事といふ事といふ事

- 山越 碓氷 湯尾 舟越 只
- 物 夕立 雷 雨 霧 雪

蚊、常衣、牛車

● 涼やと暮れはなれい思ふを傍るた夏の事
りまの牛のあまきい思ふを傍るた夏の事

一 四河

和名抄、あつたつらざとていふ物
四方にわたりていふ事といふ事といふ事
とていふ事といふ事といふ事といふ事
とていふ事といふ事といふ事といふ事

- 段尾 洋 上月 子奴 妻 女 娘
- 草 肝 雲 桂 旅 人 橋 衣 肝 心 忍
- 朝 衣 水 雞 他 妻 雨 酒 夕 立 車
- 刈 干 麻 妻

● 下ふくはれい思ふを傍るた夏の事
他妻の事といふ事といふ事といふ事
とていふ事といふ事といふ事といふ事
とていふ事といふ事といふ事といふ事

のつらとをいふあるは内傷淫色をいふ
 あらう血虚なるやれりしに人臣
 ありまはとこをいふはさうはつと
 有るはとこをいふはさうはつと
 あらう血虚なるやれりしに人臣
 ありまはとこをいふはさうはつと
 有るはとこをいふはさうはつと
 ありまはとこをいふはさうはつと
 有るはとこをいふはさうはつと

●車名の意はここの名居人といはるは
 あらま男安くて車名をいふは車名をいふ
 するはとこをいふはさうはつと
 ありまはとこをいふはさうはつと
 有るはとこをいふはさうはつと
 ありまはとこをいふはさうはつと
 有るはとこをいふはさうはつと
 ありまはとこをいふはさうはつと
 有るはとこをいふはさうはつと

一山嵐

嵐字暴字と皆ありとあり
 義のあつて嵐とありとあり

●暴風の義ありとあり嵐の義ありとあり
 一山とありとあり嵐の義ありとあり
 ありまはとこをいふはさうはつと
 有るはとこをいふはさうはつと
 ありまはとこをいふはさうはつと
 有るはとこをいふはさうはつと

●雲、雪、霽、本、雲、麻、虫、板、松、
 葉、瓦、洋、舟、矢、毛、衣、振、時、雨、
 三、宝、山、滝、止、ち、花、揚、衣、新、
 屋、ね、舟、旅、花、ま、別、桐

●あつて嵐の義ありとあり嵐の義ありとあり
 ありまはとこをいふはさうはつと
 有るはとこをいふはさうはつと
 ありまはとこをいふはさうはつと
 有るはとこをいふはさうはつと

夫の指の雨しやそく指の糸しなましくし来季
しりぞ 松の皮の指の糸のまろくまろく列して来
一針糸の指の指の糸のまろくまろく

● 糸の世 糸の世 糸の世 糸の世
糸の世 糸の世 糸の世 糸の世
糸の世 糸の世 糸の世 糸の世

一有増

大さくはねしき指の糸
あうりあ粒の糸のまろくまろく
全そのまろく

● 隠糸 吉世 隠糸 隠糸の世 山
糸の世 糸の世 糸の世 糸の世
糸の世 糸の世 糸の世 糸の世

一顯

● 玉の光 指の糸の光 玉の光
指の糸の光 指の糸の光
指の糸の光 指の糸の光

一争

● 因境 正秋 正 信合 松の皮
乱暮

一藍

あわし割せりの青きけの糸
あわし割せりの青きけの糸
あわし割せりの青きけの糸
あわし割せりの青きけの糸

一 舟人

海の字は早稲池戸原にあましとあり
あましの川流うへは葦原の各庄
舟人とも舟あつ舟もさし船戸龍戸ととも
是し泉亭とも早稲池白水亭ともうの白水
いとし地名高の漁師の如し崑崙奴の歌よ
て中よく舟あつ舟や研編とくくう南海北
艇裏以舟為堂堂有三一ハ為真管若峯細
里論二ハ為帳管若波内取隅三ハ為木管
若代材木とあり

- 官堂 櫓衣 釣 舟 若堂 船 舟
- 松崎 墨衣 舟障 世様々 媽秋
- 日和 古衣 伏堂 烟川 上居地
- さくし 若さく 舟屋や ちくく
- 船 舟 漢 栲澁 藤葉 烟 舟舟
- 貝於 訊

夫 舟の字は早稲池戸原にあましとあり
あましの川流うへは葦原の各庄
舟人とも舟あつ舟もさし船戸龍戸ととも
是し泉亭とも早稲池白水亭ともうの白水
いとし地名高の漁師の如し崑崙奴の歌よ
て中よく舟あつ舟や研編とくくう南海北
艇裏以舟為堂堂有三一ハ為真管若峯細
里論二ハ為帳管若波内取隅三ハ為木管
若代材木とあり

夫 舟の字は早稲池戸原にあましとあり
あましの川流うへは葦原の各庄
舟人とも舟あつ舟もさし船戸龍戸ととも
是し泉亭とも早稲池白水亭ともうの白水
いとし地名高の漁師の如し崑崙奴の歌よ
て中よく舟あつ舟や研編とくくう南海北
艇裏以舟為堂堂有三一ハ為真管若峯細
里論二ハ為帳管若波内取隅三ハ為木管
若代材木とあり

舟の字は早稲池戸原にあましとあり
あましの川流うへは葦原の各庄
舟人とも舟あつ舟もさし船戸龍戸ととも
是し泉亭とも早稲池白水亭ともうの白水
いとし地名高の漁師の如し崑崙奴の歌よ
て中よく舟あつ舟や研編とくくう南海北
艇裏以舟為堂堂有三一ハ為真管若峯細
里論二ハ為帳管若波内取隅三ハ為木管
若代材木とあり

この内への誘曳の奇蹟、住う大暈とて
神代紀に千石の誘曳の奇とて、誘、木の名
木の皮とて、神とて、
夫、
長庚、

一尾

あとと訓する、
名、
河摩、
女母、

ありき、
児とて、
くそ、

楯杖、
行、
上、
悟、

馬、
魚、
糸、
糸、

一曙

治理、
古事、

舟、
舟、
舟、
舟、
舟、

雁、
鳥、
鳥、

鳥、
鳥、
鳥、
鳥、

一總角

幸、
神、

神、
神、
神、
神、

牧草をりらぬし 又あつた地を拾へてりとい
わぬ車登りとしてきりぬの能きやとてり信角
くわうし虎をけりし 惺惺にけりし系

あつた地の長き地をけりし同んちやうとあつた
このぼくはけりしあつたけりしお徳のちと
ろひようとしていけりしけりしあつたけりし
けりしあつたけりしけりしけりしけりしけりし
上第同んち下第者同尻落 ● 隆東方を多洲ぢい
とんぼりあつたけりしけりしけりし

● 牛 野 苗 花 くだりあつたけりし
あつたけりしけりしけりしけりしけりしけりし
夫はけりしけりしけりしけりしけりしけりし

一 鸚鵡

あつたけりしけりし

● 碁 狂言 客人 牙の平 詰役
桃 雁 秋人 壺

大養とてりしけりしけりしけりしけりしけりし
▲ 新豊酒色清冷露霜中

一 鈴

あつたけりしけりし 左右相対の
あつたけりし 桃花菜葉に籠りし壺

舌長半舌とてりし ● 武長院のけりし
あつたけりし 木港まてりし世とてりしあつたけりし
ことごとくあつたけりしけりしけりしけりしけりし
圓いあつたけりしけりしけりし

あつたけりしけりしけりしけりしけりし

一 あこめ

梁塵抄のあつたけりしけりし
あつたけりし けりしけりしけりしけりし

れい馬 ● 福とあつたけりしけりしけりし
さねとあつたけりしけりしけりしけりし
さる服をけりしけりしけりし 唐頼子女人
近身衣とてりしけりしけりしけりしけりし
かるとあつたけりし 上第のあつたけりしけりし
式子裾とあつたけりし 説文、短衣とてりしけりし
子のけりしけりしけりしけりしけりし

ねれし大津大武のまゝにしてはあはれよく
 かねし男女とも用。相傳し。●庭にあま
 とくし目し。●袖の衣舞の仕様の下はあ
 せきまつこと束帯し。袖のころをこし下裳等
 傳す。

●甲申の井たぬあはれはあまのあまのあ
 こあまのあまのあまのあまのあまのあ
 ころのあまのあまのあまのあまのあ
 ころのあまのあまのあまのあまのあ

一 ●あまのあまのあまのあまのあまのあ

河吉耶のあまのあまのあまのあまのあ
 多那あまのあまのあまのあまのあ
 まろしとてあまのあまのあまのあまのあ
 やい輝るやまろし。●新振玉祀。河久振玉とてあ
 万原や、鍬玉とて六伝。あまのあまのあまのあ
 や貝とあまのあまのあまのあまのあ
 伴貝とあまのあまのあまのあまのあ
 りしほせとあまのあまのあまのあまのあ
 ありあまのあまのあまのあまのあまのあ
 ●あまのあまのあまのあまのあまのあ

一 ●朝

あまのあまのあまのあまのあまのあ
 けい少に扶し。●朝長とあまのあ
 いまのあまのあまのあまのあまのあ
 ●明はるをあまのあまのあまのあまのあ
 目しとあまのあまのあまのあまのあ
 明の物りとあまのあまのあまのあまのあ
 り古と集し。●朝長とあまのあまのあ
 朝初の河。●あまのあまのあまのあまのあ
 流こと伝はるる伝。●あまのあまのあまのあ
 列の舞もやとあまのあまのあまのあまのあ
 のあ。●古事記のあまのあまのあまのあ
 只朝夕のあまのあまのあまのあまのあ
 式に朝影夕影のあまのあまのあまのあ
 百原のあまのあまのあまのあまのあ
 中れい足も中り朝夕の菜美あまのあまのあ
 あまのあまのあまのあまのあまのあ
 少り朝葉のあまのあまのあまのあまのあ
 只朝夕のあまのあまのあまのあまのあ

一 浅茅

海牙雅し浅句茅斗もよる

勢、菘、麻、稻妻、荒田、川辺、
尾水、古塚、庭野、笛、梅、陶、
口菜、稻葉、中地、杖尾、水置園、
布田野、ほろこ、古流、素門、園、
萩、池尺、三精、括ち、古里、虫、
五明、矢田也、宿面路、本家、括衣、
巻、松虫、漆筆

万 秋の浅茅は、
古の浅茅は、
里まねりもあぬしんもて浅茅ちりて

一 麻衣

本家の麻衣もよる

山里、山倉、里子、地吉、炭焼、炭子、
水葱橋、括橋、成土、杵人、葉人、想

以焼、本城刈、佐人、素門、少田者、
山久、焼男、形女者、八成人、山吹、
宮木川

少の浅茅は、
焼の男もあまうけの麻衣もよる川は、
山吹の浅茅もあまの麻衣もよる川は

一 秋津洲

決代はあけつしぬしよる

秋とあきしよあかぬのあし百穀已に降て
万氏能是の付られしつては園と千秋長
五百秋長は湯種園とあつて陸のしよる
るる、
種園も秋津洲とよる川は

秋の浅茅は、
秋の浅茅は、
秋の浅茅は、

舟の舟も陸に落ちる舟の困りたる舟も舟に落ち

一、秋の宮

申宮とヤセウ長秋言の言心
浮き状の言心くくく

又秋の宮入ると言はれり
後宮の二宮を太
后宮大夫は曰り

申し上り言まふ日数と秋の言心くく

一、秋の沙

水より冬く秋の言心く

玉簾、浜一舟、松、野田に、義き、

大宮の松の宮の言心く、松の言心く、松の言心く、
松の言心く、松の言心く、松の言心く、
松の言心く、松の言心く、松の言心く、
松の言心く、松の言心く、松の言心く、

一、高人

高の言心くあま言心くよあつよう
人の言心く言心く言心く言心く言心く
言心く言心く言心く

遊女、父や我も、由我求り、舟、

舟の舟の言心く言心く言心く言心く言心く
舟の言心く言心く言心く言心く言心く
舟の言心く言心く言心く言心く言心く
舟の言心く言心く言心く言心く言心く
舟の言心く言心く言心く言心く言心く
舟の言心く言心く言心く言心く言心く

一、雨

あめい天水のつらみ言心く
言心く言心く言心く言心く言心く
言心く言心く言心く言心く言心く
言心く言心く言心く言心く言心く
言心く言心く言心く言心く言心く
言心く言心く言心く言心く言心く

桐、枹、枹、草庵、杜う、垣、桂、
蓮、雨の言心く言心く言心く言心く言心く
桂田、葉々の言心く言心く言心く言心く言心く
辰舟、泊舟、渡舟、窓、未の言心く言心く
舟、葉の言心く言心く言心く言心く言心く

四河、松葉、さの全段、故の處、

れ、在りし紙を坊の西の敷の山を立られ遊
 び、^山を西の山と云ふ、此の山を今も昔も
 西の山と云ふ

・^山名、此の山を西の山と云ふ、此の山を
 又上りて、^山名、此の山を西の山と云ふ、
 此の山を西の山と云ふ、此の山を西の山と云ふ、
 此の山を西の山と云ふ、此の山を西の山と云ふ、

・^山名、此の山を西の山と云ふ、此の山を
 此の山を西の山と云ふ、此の山を西の山と云ふ、
 此の山を西の山と云ふ、此の山を西の山と云ふ、

・^山名、此の山を西の山と云ふ、此の山を

・^山名、此の山を西の山と云ふ、此の山を

・^山名、此の山を西の山と云ふ、此の山を

・^山名、此の山を西の山と云ふ、此の山を

・^山名、此の山を西の山と云ふ、此の山を

・^山名、此の山を西の山と云ふ、此の山を

一網

あつしよあつしよ、差目の後、
 堀廻り、あつしよ、堀廻り、あつしよ、
 又存網あり、又掛網あり、網あり、
 別を、あつしよ、あつしよ、あつしよ、
 返り、あつしよ、あつしよ、あつしよ、
 網あり、あつしよ、あつしよ、あつしよ、

・^山名、此の山を西の山と云ふ、此の山を

・^山名、此の山を西の山と云ふ、此の山を

・^山名、此の山を西の山と云ふ、此の山を

・^山名、此の山を西の山と云ふ、此の山を

・^山名、此の山を西の山と云ふ、此の山を

・^山名、此の山を西の山と云ふ、此の山を

其 船はくさくさといふ病のまきとぬ神おれつ雅名
船はくさくさといふ病のまきとぬ神おれつ雅名

● 辰 芳 舟 根 古 丸 古 丸 川 舟
古 丸 舟 根 古 丸 古 丸 川 舟
古 丸 舟 根 古 丸 古 丸 川 舟
古 丸 舟 根 古 丸 古 丸 川 舟
古 丸 舟 根 古 丸 古 丸 川 舟
古 丸 舟 根 古 丸 古 丸 川 舟
古 丸 舟 根 古 丸 古 丸 川 舟
古 丸 舟 根 古 丸 古 丸 川 舟
古 丸 舟 根 古 丸 古 丸 川 舟
古 丸 舟 根 古 丸 古 丸 川 舟

一 馬 醉 木

● 性 夫 稀 駒 粟 山 吉 野 川 三 五 地

生 駒 山 山 辺 岩 根 庵 玉 田 接 の
生 駒 山 山 辺 岩 根 庵 玉 田 接 の

夫 者 也 粟 山 の 根 を 焼 け 申 上 の 針 入 夫 後
夫 者 也 粟 山 の 根 を 焼 け 申 上 の 針 入 夫 後
夫 者 也 粟 山 の 根 を 焼 け 申 上 の 針 入 夫 後
夫 者 也 粟 山 の 根 を 焼 け 申 上 の 針 入 夫 後
夫 者 也 粟 山 の 根 を 焼 け 申 上 の 針 入 夫 後
夫 者 也 粟 山 の 根 を 焼 け 申 上 の 針 入 夫 後
夫 者 也 粟 山 の 根 を 焼 け 申 上 の 針 入 夫 後
夫 者 也 粟 山 の 根 を 焼 け 申 上 の 針 入 夫 後
夫 者 也 粟 山 の 根 を 焼 け 申 上 の 針 入 夫 後
夫 者 也 粟 山 の 根 を 焼 け 申 上 の 針 入 夫 後

一 あ ず みの 神

左 陸 田 麻 路 の 所 須 岐 神 あり 赤 土 の 社
左 陸 田 麻 路 の 所 須 岐 神 あり 赤 土 の 社

○佐目ろく

屏前張 倭馬牙 三枝拳 さいり
澤障 舟帷成神 佐保姫 里
悟猿 猿滑 投投間 坂神
遠言 早苗 鱈 鞠 酒 盃 才
織篠 小妻 連 並簀 細石
寄 防人 鷺 三枝 指焼叶 左遷
双法

○佐

一屏

雜歎 非速

○落 舞 舟 鬪 江 久 人
夫、此世もよめは角はうり油の肉のほろろを舞

一前張

神事おのゑと神祇久とて扱ふ
作々神事同 ○本はさう
子衣の厚え兩れと ○未 兩れとくろは
厚く障とい又衣はふんとくろは
はるく初萩としとくろ一玩子幸萩なり
はるくふとくろ 早地と奉揚の序衣あり
万はあつても様としてすれ衣とくろは
のこくるまわ

一催馬車

雜 此神祇書柳梅つえくふを
ものおもあつ作三よふくその手
をまうし倭馬車といはつてと馬走るとの
うらひうらやとくろあつてと馬走ると
すまじ

一三枝

日本花種字とある中各條十
一三枝とあるは花名三枝とよ
めまの多訓也一三枝一三枝
等の三にとれよのつづきとて
物用子用のいふ條也

●神祇令三枝系を多解謂粟川社系也
三枝花併兩枝系は曰三枝こし
り花多す一三枝の一の末三枝
れて葉の末の葉の末の末の末
の葉子撥ちるは三枝の末の末
とあり一三枝一三枝一三枝
り花多す一三枝の一の末三枝
れて葉の末の葉の末の末の末
の葉子撥ちるは三枝の末の末
とあり一三枝一三枝一三枝

一三枝

此花の種名とて又
虎杖のこしとて花名
一三枝とあるは

●三吉地 野の香 尺へ 駒 雛子 玉蔵
此の地

●^天 此の地は海に下りては花の種名とて又
虎杖のこしとて花名
一三枝とあるは

一澤

こしとよむの各名種字の三
靈泉地とてあり神代地
とありとてあり甲種とてありとてあり
はよみありとてあり地也

●根并 芝生 岸 水子 草の 舟
細流 田 野 山 川 谷 雁 澤
鴨 水子 桂 小魚 布衣 淀地
伏見地 入道 ころも 石巻 牡丹
鴨 荒 五針 ね板とて 麦
芦 土の砂 口菜 田産

●^お 此の地は橋田の地とてあり花の種名とて又
虎杖のこしとて花名
一三枝とあるは
夫の地はよむる若阿つこの地とてありとてあり

●**雁田** 又は、**雁水** 又は、**山伏** 山火
あはれの原 野、おれ 甚だしく入はの原
原のくけ 及びの井 及びの原
外西より神、山の原、おれ、及びの原

一障

障 障りとはあつたを言ふ事
古語に障りとはあつたを言ふ事
障神の事あり 障りとはあつたを言ふ事
和歌抄に障りとはあつたを言ふ事
障りとはあつたを言ふ事 障りとはあつたを言ふ事
障りとはあつたを言ふ事 障りとはあつたを言ふ事

●**鬼** 鬼の原、日の原、竹々の原
舟、及びの原、若く舟、及びの原
人の原、及びの原、及びの原

一たの成神

●**天照大神** 天照大神、天照大神、天照大神
天照大神、天照大神、天照大神
天照大神、天照大神、天照大神
天照大神、天照大神、天照大神

と色と物と事との原は、その原は、その原は
及びの原、及びの原、及びの原
及びの原、及びの原、及びの原
及びの原、及びの原、及びの原
及びの原、及びの原、及びの原

●**天照大神** 天照大神、天照大神、天照大神
天照大神、天照大神、天照大神
天照大神、天照大神、天照大神
天照大神、天照大神、天照大神

一佐保姫

佐保姫 佐保姫、佐保姫、佐保姫
佐保姫、佐保姫、佐保姫
佐保姫、佐保姫、佐保姫
佐保姫、佐保姫、佐保姫

●**飛** 山の原、及びの原、及びの原
山の原、及びの原、及びの原
山の原、及びの原、及びの原
山の原、及びの原、及びの原

●**山** 山の原、及びの原、及びの原
山の原、及びの原、及びの原
山の原、及びの原、及びの原
山の原、及びの原、及びの原

一悟

さうとい津代池、智又潮をよめり
去取の多とさる首子、是之那之
謂之智とさる悟とさるよあし同し

●月、花苑、落葉、落葉、行、世乱、虹、白
●早、壁、穴、山位、三軍、空の垂色をさる
水巻、業門、五七先を不、天、号、蓮、
笛、灯、入虫、降、氷、山

●夫牛馬の牧の所、いかに鹿のくさし、此悟のき、此が
先俊
し、此
是るるく、さる、此悟のき、此が先俊の
此悟
鹿、此のゆ、さる、此悟のき、此が先俊の
さる、此悟のき、此が先俊の

一猿

●此猿をさる、此の悟のき、此が先俊の
此悟
此悟のき、此が先俊の

●さる、此悟のき、此が先俊の
此悟
此悟のき、此が先俊の

●此悟のき、此が先俊の
此悟
此悟のき、此が先俊の

●此悟のき、此が先俊の
此悟
此悟のき、此が先俊の

後人性理何にてもくも

尾の性理何にてもくも
尾の性理何にてもくも

尾の性理何にてもくも
尾の性理何にてもくも

尾の性理何にてもくも
尾の性理何にてもくも

尾の性理何にてもくも
尾の性理何にてもくも

尾の性理何にてもくも
尾の性理何にてもくも

尾の性理何にてもくも
尾の性理何にてもくも

尾の性理何にてもくも
尾の性理何にてもくも

猿滑

夫は^天尾の性理何にてもくも

一坂あくる

子論る

一坂

いろしよあいの坂を登降し路

○樵夫、薪、賤、瓜木、小岳、木塚
山井、馬、車、畷、山嶽、先、大夫
山寺、柴人、笠、山、杖、小池、雪
山人、歳、衣、山、三笠山、楯、山
杯、杖、車路、舟、雨、柴、木
足、友、代、山、吹上、候

▲猿共摘山菓 ▲兩岸猿舌鳴片上

▲猿共摘山菓 ▲兩岸猿舌鳴片上

▲猿共摘山菓 ▲兩岸猿舌鳴片上

▲猿共摘山菓 ▲兩岸猿舌鳴片上

▲猿共摘山菓 ▲兩岸猿舌鳴片上

▲猿共摘山菓 ▲兩岸猿舌鳴片上

▲猿共摘山菓 ▲兩岸猿舌鳴片上

▲猿共摘山菓 ▲兩岸猿舌鳴片上

▲猿共摘山菓 ▲兩岸猿舌鳴片上

と云 老後つふ枝の事いふはつとをいふなり
神やう小枝の事いふはつとをいふなり
夫 神やう小枝の事いふはつとをいふなり
万言はつとをいふはつとをいふなり

●老の及 とうり と及 とうり 下り 下り
えんはく とうり 小枝の事

一 神

神祇推し 此神祇下 ぼせまては
玉串の事いふ神の事いふ 日事記

賢木とともきとよあり 枝木とちり 又と賢
本とともきとよあり 万原坂 栗木の事いふ
本とともきとよあり 此世神字と送せり
●原や 神の事いふとよあり 神事とよあり

●本佛堂 巨連 神位 神位 彦不
野や 奈 宮 白帯 井位 雪
月 生多山 兵 巨祢 祈恩 三山
と女子 洗山 神山 天香久山

生多山をいふはつとをいふはつとをいふなり

と云 女まうあうとよあり 神位の事いふはつとをいふなり
右 夫は女事と信也の神の事いふはつとをいふなり
夫 女まうあうとよあり 神の事いふはつとをいふなり
夫 神やう小枝の事いふはつとをいふなり

●神板 八三神 とうりや、 神板 海神
内家の神 上言板、 峰 本三山
峰の事いふ 神の事いふはつとをいふなり
神板の事 神の事いふはつとをいふなり

一 出くし

誘やまの 崖 女まうあう
三山とよあり 万原坂 栗木の事いふ

とも情出とも情進ともまれの賢いともち
おすともとていふともちともちともちともち
ともちともちともちともちともちともちともち
よありともちともちともちともちともちともち
用ともちともちともちともちともちともちともち
ともちともちともちともちともちともちともち
ともちともちともちともちともちともちともち
●先い子 誘やまの

●左氏、犯言露、況、はの執、あぬ別、
 子を能く中、登る契、遠く元、
 つま中立、信をよ、退位、追行、
 おもひ子進入、酒のあ、

右
 万
 夫

一 婿

夫あすの酒場をさるる時、

一 鞠

口はさや、

夫あすの酒場をさるる時、
 又、
 夫あすの酒場をさるる時、

一 酒

さけとよあ、

とら、杜康、
 酒造の長と、
 酒の酒を、
 別、春酒、
 春と、

●梅場、
 谷恋、
 首途、
 凱、
 佛名、
 紅葉、

●酒の、
 存、
 夫あすの酒場をさるる時、
 夫あすの酒場をさるる時、
 夫あすの酒場をさるる時、

鳥居の石の白きものありて赤いものありて

一七 皮

法西の地解よりいほの事と
まら皮ともいふなり

志賀郡の地及び早稲地も此ともす
のありてを赤い皮とすなり
此の皮の肉も栗柄ともいふなり
あり万箇を平皮とも申す
あり神楽小竹原と申す
とすは搦こ和名抄細名とす
同し此の毛信に凡行中と成文曰健とす

●細皮もさる

●志賀、池、汀、湯也、牛、長柄、葉

●小川、赤鷹、油街、神楽、凱

夫、吾も此の山にありて小川のほとりには此の石あり
此の石は白く赤くありて此の石は凡の石
なり

一八 皿蟹

此の蟹の葉もさる

一九 細石

早稲地にもありて砂砾ともいふ
とすなり

石ともいふなり
もよみ又これとすなり
助産と硬石破産とすなり

●中津山、長柄、尻、萩、水、赤も諸川

●早稲地、吹上、谷川、葉

夫、神のやまの山にありて此の石は凡の石とす
此の石は白く赤くありて此の石は凡の石
なり

二〇 崎

早稲地と崎字岬字をき地とす
先の名なり

石のやまの山にありて此の石は凡の石とす
此の石は白く赤くありて此の石は凡の石
なり

●花 後秋江 柳舟 船 以う又
 貝 曹 露 管 中う 千う 萩
 床 舟 防務 玉川 舟 舟 舟
 西 松 舟 舟 舟 舟 舟 舟
 杜う 晴

●いそ 紀 後 舟 舟 舟 舟
 晴 紀 舟 舟 舟 舟
 舟 舟 舟 舟 舟 舟

一防人 ^{サキモリ}
 日 舟 舟 舟 舟 舟 舟
 舟 舟 舟 舟 舟 舟
 舟 舟 舟 舟 舟 舟
 舟 舟 舟 舟 舟 舟
 舟 舟 舟 舟 舟 舟
 舟 舟 舟 舟 舟 舟
 舟 舟 舟 舟 舟 舟

●東 舟 舟 舟 舟 舟 舟
 舟 舟 舟 舟 舟 舟
 舟 舟 舟 舟 舟 舟
 舟 舟 舟 舟 舟 舟
 舟 舟 舟 舟 舟 舟
 舟 舟 舟 舟 舟 舟
 舟 舟 舟 舟 舟 舟
 舟 舟 舟 舟 舟 舟

一鷺 白鷺 青鷺 一舟
 ●堤 尻 田 汀 池 沼 林 岩 瓶 山 本
 菱 菰 鳥 牛 舟 江 舟 舟 舟
 松 芦 井 杭 山 川 生 田 池 杜 岸
 榊 野 沢 二 厚 洲 先 榊 系 舟 舟
 川 田 夕 豆

此 舟 舟 舟 舟 舟 舟
 舟 舟 舟 舟 舟 舟
 舟 舟 舟 舟 舟 舟
 舟 舟 舟 舟 舟 舟
 舟 舟 舟 舟 舟 舟

此松の葉の形は... 一行 雅世
... 政を
... 松は

一三枝

三枝の松は... 幸多しと云う程の
... 松は

夫の... 松は... 松は
... 松は

一指燒芋

艾こと... 松は... 松は
... 松は

松の... 松は... 松は
... 松は

一左遷

中位級... 松は... 松は
... 松は

筑紫... 松は... 松は
... 松は

露多しをばつるの峰のらげぬる光差ぬ
 このふら中山の院砌とてわし時よあつとを原の
 別荘をのぞき露あつて死ねの海さうらうのそ
 けん幸ふんといふまじか
 和歌の半時子と唐あつて人の昔よ愛の海さ
 こい遠坂園くたはの井よまじか
 のぞくあはれ草の峰の月もつる句の人の昔の海さ
 こい遠坂の園くたはの井よまじか
 すと也思ふ草の峰の月もつる句の人の昔の海さ
 こい遠坂の園くたはの井よまじか
 白筆のてふ雨のそよみ丹慈雲の峰の住まの
 人をまじか
 一いつはなまじか
 身がれ劫をまじか仲の波をまじか
 我こそいふ別れまじか
 遠坂園くたはの井よまじか
 又くたはの井よまじか

一 双法 文句表と持れ表と。

石山、古き暮、二人と暮、親き
 緒、芳、几帳中、急、灯、雨、折
 徒也、折山、昔、飛

●折山の峰の雨をいふまじか
 こい人の双法をいふまじか
 夫とまじか
 於 徒也まじか
 折山まじか
 古き暮のまじか

○幾目く

几帳 相 菴 結 衣 北 止 祭
 襲 痛 狐 巨 祿 昨 日 菊 推 夫 象
 皇后 二月 雉 子 君 岸

○幾

一 几帳

五七のうとい几帳あるをいふ
 羽せん様平紙の基帳とあり
 松几帳よせ几帳をいふ
 神をいふ
 ぬいを袖几帳とあり
 細工物の絞を消す
 几帳面とあり

○お底 物怪 巻 足下

一 相

まうとよめいといひ 伏し却て
 第ウとのるれい名と十形併
 字院の杖を知らざるといふあり 相相といふあり

○ぬい秋花い反又也といふ

○初秋 秋初 唐う 人馬等と 桐

物て 松 井 檜 萩 ね木橋

目列ぬ香 榎 菘 霧 山里 詩

弟 琴 碇 竹 怪 古々 要

軒 百姿 鳳凰 雨 外面 辰彦

○山重の時は花を松守り 舟の桐の下をさるゝ 案
 ありまきれや桐の二はのき初て人の心をやれり
 百姿や桐の枝は伝ふのままの行のさるゝし 聖

一 結

きぬしよあいの音をいふ訓するあり
 西人産敷子 几結 有 四 疋 留 長

指平指細結素結といふあり 百舞物といふ大

結といふあり 結い衣といふあり

○初と衣ともいふ三條をいふ東第の下の

初と衣冠のちまの衣と存すとていふあり

いふに衣の衣といふあり

○ぬいすまぬい づねるんをいふあり

とよめまのたのよの夜あつしとせぬるし
よねいし。まぬい生踏しすしとてし
禊りまぬい練結し生曰諸悪曰禊とて
●まをきてつとてあつしとせぬるし
●まをきてつとてあつしとせぬるし
●まをきてつとてあつしとせぬるし
●まをきてつとてあつしとせぬるし
●まをきてつとてあつしとせぬるし
●まをきてつとてあつしとせぬるし
●まをきてつとてあつしとせぬるし
●まをきてつとてあつしとせぬるし
●まをきてつとてあつしとせぬるし
●まをきてつとてあつしとせぬるし

一衣

すうしとてあつしとせぬるし
●目洗、忍中、小車、ひきとてあつし
●手松、国丸、曾花、佐袖、まのた
●まをきてつとてあつしとせぬるし
●まをきてつとてあつしとせぬるし
●まをきてつとてあつしとせぬるし
●まをきてつとてあつしとせぬるし
●まをきてつとてあつしとせぬるし
●まをきてつとてあつしとせぬるし
●まをきてつとてあつしとせぬるし
●まをきてつとてあつしとせぬるし
●まをきてつとてあつしとせぬるし

一北

●星、晴、裁路、光、大束、雪、海
●洗り、山、光、峯、冬、まき色、日、氣、無
●肝、名、梅、立、文、知、花、露、翁
●奈、白、川、海

●白、白、し、け、ま、の、北、回、川、の、路、の、ま、り、ま、り、の、ま、り、ま、り
めまるとてあつしとせぬるし

一北

●狐
●狐、狐、狐、狐、狐、狐、狐、狐、狐、狐
●狐、狐、狐、狐、狐、狐、狐、狐、狐、狐

あいにまいたつと事しつるにけつともつり
 ●俗に狐を野子といふ傳作、特子として狐といふはれり字彙、狩野天以狐而小出胡地云
 ●狐史に其口毒を吐して或いは撃尾出火といふもあせり、ちの火青く燃してて鬼燐なり
 ●虎の威せり狐とあり一父選、龍惠社で狐藉虎威といふなり
 ●狐を稻荷の神の使といふ、伊豆法衣記に云々、所魂神亦名い、兼女三狐神といふ子よなり三狐の所無津の多、
 ●狐といふもめともいふ兼女三狐神といふ子よなり伊豆とてめ候ふ、いふ物に狐といふとて之、白狐の一といふ、昇地もいふなり又
 ●黒狐あり候、早地といふ由尾、白狐女あり
 ●信輝と古狐といふ、玄中記に千載の狐、乃佳輝、巨熊の狐、乃美女といふなり
 ●文馬、喜原野狐妖、且先化爲婦人、顔色好、見人十人八九い迷といふなり
 ●伽藍記、狐の化して人の髪を截り、る、一百三十八なりといふ

- 山陰、古社、松葉、人草野、兩扱
- 菅、古名、菘、花、山伏、古名、
- 肝結皮、相皮、古狐、麩、葉、
- 葉、藪、蘆、中、古名

夫をさるは、狐も、途、人、生、か、ん、あ、ん、
 百、狐、い、ひ、せ、い、い、山、の、ゆ、の、こ、と、ま、の、け、あ、り、
 人、こ、と、ま、の、く、老、狐、い、と、ま、の、け、あ、り、
 扱、い、い、ま、る、あ、り、い、ま、の、け、あ、り、
 ●い、ま、る、あ、り、い、ま、の、け、あ、り、

一 区 称

海、産、り、し、き、い、と、あ、り、
 ●い、ま、る、あ、り、い、ま、の、け、あ、り、
 貴、り、し、梓、り、て、搗、り、つ、る、い、ま、の、け、あ、り、
 ●幣、神、事、疾、木、糸、鼓、阪、花、

一昨日

原さきのふとあり米の目の名
引しす画半七白とありす
子とせり。此いり女のわしといふ蓋子
昔者さよのう昨夕のや暗苦之極昨夜
しけりや何の層まへさう人のわしとふ
まのけさま重なるのこぼれまほはれんが

一樵

人偏し此柱物 柴 瓦木重に句
されと樵夫の歌子 瓦木重とよめい
句といふ表に

●花の陰 藤衣 黒馬 坂 九折 棧
時雨 舟 雪 荒山 谷 滝 巖
巾下 つかし 糸 船 今田也 将
凱 羊刈 笛 笠

夫 落つる花を拾ひて せんを染せし人やふん
萩 葉舟のこころ落つる花を拾ひて せんを染せし人やふん
お 杉下り 瓦木重なるのこぼれまほはれんが
お 瓦木重なるのこぼれまほはれんが
お 瓦木重なるのこぼれまほはれんが
お 瓦木重なるのこぼれまほはれんが

●采人 山人 山人 山人 山人

●瓦木重なるのこぼれまほはれんが
●柴取しつ 石斧の柄 つかしとら
●谷川の瓦木の舟 せんを染せし人やふん
●葉舟のこころ落つる花を拾ひて せんを染せし人やふん
●休ん花をさか せんを染せし人やふん
●夕これとのあつと せんを染せし人やふん
●重なり瓦木のこぼれまほはれんが

一象

まはしよあふ牙の橋の文子似り
あれい標すり 橋ハ木文に
とほえおあつとくさう 刻心の多様や

●北山松陰道永十五年 南唐のう 墨象を歌
百子原十二年 垂圓より 北世三象を賣り三才
ト世文と有り 百子原四月 京入たり 毛筆色
湯水製

●耕 舞 帆 扇 扇 扇 扇 扇
●車 麗人 麗人 麗人 麗人 麗人
●張茂豆象為大守

思帰可便帰と云ふ杜詩をよめるの歌
をよるべしとて

●花の姿、月の姿、虫の姿、法安、大將、行等
法園、子丸團、棋宗、娘、小氏、
官仕、左近、司右、信長、以之、
川水、ささる、内山

●信長の子屋松の松をよる事未だ知らざる
共、よの思の所、黒松、北井、種と只の歌人
右、思をよる烟とて、以之の浦、よる、歌、思を

一山岸

さしとよある水涯をよる藤石
の多、藤、星、龍、研、ささる、
岸をよる画せり、●岸の司とよある、ささる、
積重の多、藤、又、藤、よる、あり、●秋、
字、流、壺、を、ささる、ささる、

●高川、伏保川、柵、堤、坪、竹、
梅、知花、苦花、水、萩、志、
洋、岩、路、水、萩、
舟、舟、阿舟、大江、信、松、友、

兼、言、雁、山、岩、つ、陰、世、吉、川、
吉、所、ワ、子、三、つ、尾、山、小、無、東、
萩、堂、田、岩、松、池、岩、
山、吹、大、井、川、信、堂、菖、菖、若、
流、三、堂、

●馬、思、よ、た、の、年、を、今、一、
夫、思、友、の、思、を、よ、る、
母、の、思、を、よ、る、
吉、の、思、を、よ、る、
信、長、の、思、を、よ、る、
こ、の、思、を、よ、る、
高、川、の、思、を、よ、る、

一、其の古くしては、梅のつぼみもまた、春のつぼみとて、
とて、そのつぼみもまた、春のつぼみとて、

夫族のつぼみもまた、春のつぼみとて、
梅のつぼみもまた、春のつぼみとて、

一、
一、
一、

申しよめ、いよ、又申すれ、
申しよめ、いよ、又申すれ、
申しよめ、いよ、又申すれ、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

速見の郡まきり常々畑をて整ふゆか古傳

● 甲の木の綿布の袋の裏まきり畑をてまきり

● 甲の木の綿布の袋の裏まきり畑をてまきり

● 甲の木の綿布の袋の裏まきり畑をてまきり

● 甲の木の綿布の袋の裏まきり畑をてまきり

● 甲の木の綿布の袋の裏まきり畑をてまきり

● 甲の木の綿布の袋の裏まきり畑をてまきり

● 甲の木の綿布の袋の裏まきり畑をてまきり

● 甲の木の綿布の袋の裏まきり畑をてまきり

● 甲の木の綿布の袋の裏まきり畑をてまきり

● 甲の木の綿布の袋の裏まきり畑をてまきり

● 甲の木の綿布の袋の裏まきり畑をてまきり

一木綿

白綿作のまきりとしし栲樹の

● 甲の木の綿布の袋の裏まきり畑をてまきり

● 甲の木の綿布の袋の裏まきり畑をてまきり

● 甲の木の綿布の袋の裏まきり畑をてまきり

● 甲の木の綿布の袋の裏まきり畑をてまきり

● 甲の木の綿布の袋の裏まきり畑をてまきり

● 甲の木の綿布の袋の裏まきり畑をてまきり

● 甲の木の綿布の袋の裏まきり畑をてまきり

● 甲の木の綿布の袋の裏まきり畑をてまきり

● 甲の木の綿布の袋の裏まきり畑をてまきり

● 甲の木の綿布の袋の裏まきり畑をてまきり

● 甲の木の綿布の袋の裏まきり畑をてまきり

こえはかたせとあましゆせ女の像も甲の花と
つくり白甲花と同一木俣とせ造り花を
女の像子つくりしよし采りしよしと生花
のよしとせしことなり ○甲のつくり木
俣像のつくり甲のつくり小呂の思味花と
易相手取木俣像結構冠額

髪りまをりし言川の中ありもれ代としておん家
山つくりし甲より暖のそとより文相あり
ひともきの神のたまひんひのさかすか

○甲のつくり一原の木俣像とあり木俣像の
通くあまをりし

万甲のつくりし甲の山をこけしつた野子をか
甲のつくりし甲の山をこけしつた野子をか
よしよれまをりしつた野子をか

しつた野子をか
又或ははまおん原へ原れはつて新甲と云
知子桂のまけつた野子をか

桂のつくり甲の山をこけしつた野子をか
とよまをりしつた野子をか
つた野子をか

○甲のつくり木俣子をか
つた野子をか

つた野子をか

○甲のつくり木俣子をか

つた野子をか

つた野子をか

一 雪山

天竺の雪山をこけしつた野子をか

つた野子をか

つた野子をか

つた野子をか

ふたつとある

和歌 昔のよきは今のよきとなく今昔のよき
を長きのかし 念志貴我我明造軍とあり
物明暖争あつたり不知死ゆふ不知死作た
造作軍安穩を常事とあつたり

一夢

古来よいかとてふなり云のうへ
この及子産しとももまをさる
● 有人いそととの大志語孫し申屋まう一炊の
まの物申能くふり

こゝの行まをこちま選ひつゆのあつた
いくちの虫程し 菱万こいさの只程とあり

杖立 大志の面をもいそととまをまをいそとと
右まをまをいそととまをいそととまをいそとと

月と三夜休流し 三味屋は入流りまのま
は死に衝しの望志書 五つとまをまをいそとと

こけてとつてわたりまをいそととまをいそとと
このまをいそととまをいそととまをいそとと

● 忍ぶまをいそととまをいそととまをいそとと
この既武丁まの飛をいそととまをいそとと

こゝのよきは今のよきとなく今昔のよき
を長きのかし 念志貴我我明造軍とあり

● 有人いそととの大志語孫し申屋まう一炊の
まの物申能くふり

こゝの行まをこちま選ひつゆのあつた
いくちの虫程し 菱万こいさの只程とあり

杖立 大志の面をもいそととまをまをいそとと
右まをまをいそととまをいそととまをいそとと

月と三夜休流し 三味屋は入流りまのま
は死に衝しの望志書 五つとまをまをいそとと

こけてとつてわたりまをいそととまをいそとと
このまをいそととまをいそととまをいそとと

● 忍ぶまをいそととまをいそととまをいそとと
この既武丁まの飛をいそととまをいそとと

こゝのよきは今のよきとなく今昔のよき
を長きのかし 念志貴我我明造軍とあり

● 有人いそととの大志語孫し申屋まう一炊の
まの物申能くふり

こゝの行まをこちま選ひつゆのあつた
いくちの虫程し 菱万こいさの只程とあり

杖立 大志の面をもいそととまをまをいそとと
右まをまをいそととまをいそととまをいそとと

へんま 悔のま きのり 汚ま
 まの世 ころく 罪のま 短ま
 此地橋 一の道 入らぬ 足早ぬ
 中よき ころく 身ぬきん くれり
 ころく ぬきん くれり 五十年
 想ひぬ くれり 一歩ぬ 元世ぬ
 くれり くれり ころく くれり
 遠ま くれり くれり くれり
 くれり くれり ころく くれり
 見ぬ時 ころく ころく ころく
 是れぬ くれり ころく ころく
 結ひぬ ころく ころく ころく
 よのね ころく ころく ころく
 おのね ころく ころく ころく
 白も ころく ころく ころく
 悔ぬのま ころく ころく ころく
 ころく ころく ころく ころく
 悔ぬのま

きのり きのり ころく ころく
 別ま ころく ころく ころく
 ころく ころく ころく ころく
 時のり ころく ころく ころく
 山根衣 ころく ころく ころく
 きのり ころく ころく ころく
 悔ぬのま ころく ころく ころく
 きのり ころく ころく ころく
 沈むのり ころく ころく ころく
 合せぬのり ころく ころく ころく

一ら

申すに、あつた男力のあつたを用て
 川まのり、あつたのり、あつたのり
 油を用、あつたのり、あつたのり、あつたのり
 を用、あつたのり、あつたのり、あつたのり
 時、あつたのり、あつたのり、あつたのり
 あつたのり、あつたのり、あつたのり、あつたのり

といひり等をて華すと云り神女無と神聖
さうとうといひよくあつ物をと務兵といひをらせり
●弓こ三人法女法と云り一軍あまの古俗
神子一子のり白人女あえ法中七人のり
白人三人うて法中五つひんたるか判らる
●楯弓決代たしく響り輝り輝り拓らるま
●神三代美神いんころちくひんたのち
●あの名をてワセり ●弓矢八幡といひ八幡神
と云矢神と稱する多くと弓矢神三女神よ
あつきて色神天と云も同法なりまへ

- 差登、内傳舟、外傳舟、衛士、近衛
- 相怪、刃、鞠、雀、雁、鹿馬、雷
- 時申、男代等、腰さき、八十の孫
- あめのあき、檣、四尾、三月、くち男
- 名符、辨人、熊夷、地居者、白とろ
- 益、枕

た 聖心人のあしすさりと神の所とていふ
諸人のあしすさりと神の所とていふ
八十の孫のあしすさりと神の所とていふ

佐麻
あしすさりと神の所とていふ
あしすさりと神の所とていふ
あしすさりと神の所とていふ
あしすさりと神の所とていふ

夫希いん馬と云もなまのあらはるる
百鬼いん馬と云もなまのあらはるる
と云り馬と云もなまのあらはるる

- 土とろ、つとろ、あつとろ、東あろ
- いんせとろ、きとろ、くちとろ、本末
- わろ、雀とろ、ちとろ、あせとろ
- らとろ、あせとろ、とろとろ
- 柳とろ、まろとろ、あましとろ、あまのらとろ
- はつとろ、あつとろ、いんよとろ
- いんよとろ、いんよとろ、いんよとろ
- あつとろ、あつとろ、あつとろ
- あつとろ、あつとろ、あつとろ

○世か

一 文陰字

蘇門答臘の吳名とし

夫の字の多し其の白雲の如しと云ふ事あり
産まざる多し其の多し其の如しと云ふ事あり
夫の字の多し其の白雲の如しと云ふ事あり

一 甲

甲一 甲一 又 甲一 甲一
甲一 甲一 甲一 甲一
甲一 甲一 甲一 甲一
甲一 甲一 甲一 甲一

○女

一 海布

海布の如しと云ふ事あり

海布の如しと云ふ事あり
海布の如しと云ふ事あり
海布の如しと云ふ事あり
海布の如しと云ふ事あり
海布の如しと云ふ事あり
海布の如しと云ふ事あり
海布の如しと云ふ事あり
海布の如しと云ふ事あり
海布の如しと云ふ事あり
海布の如しと云ふ事あり

夫の字の多し其の白雲の如しと云ふ事あり
産まざる多し其の多し其の如しと云ふ事あり
夫の字の多し其の白雲の如しと云ふ事あり

一目の度

大成経の天照大神産屋
よこせしと云はれし時并自

と云はれし時并自
或は之をいふ者亦同しと云はれし
不妄と云ふりし所の下の畧は地いひ
よてその正と云ふるも亦同しと云
と云はれし時并自の度子の事と云ふ
吉と云ふる事と云ふ事

たのふれしと云はれし時并自の度
よこせしと云はれし時并自の度

一乳母

和名新乳母と云ふりし
と云ふも妻の妹の事と云ふ
の古事より云はれし時并自の度

一廻

神代元は廻りしと云ふ
と云ふも同様の事と云ふ
廻りしと云ふ事と云ふ事
廻りしと云ふ事と云ふ事

○鶴、鳥、鷲、青、虫、秋、月、日、
日、教、水、の、車、益、拜、教

一恵

めぐりしと云ふ事と云ふ事
安恵と云ふ事と云ふ事
と云ふ事と云ふ事と云ふ事

○草木の両旁、
左近し岸

鳥
と云ふ事と云ふ事

一めぐりし

めぐりしと云ふ事と云ふ事
及史記の胸と云ふ事
同様に云ふ事と云ふ事
同様に云ふ事と云ふ事

と云ふ事と云ふ事

追記

一曲水宴

三月三日の宴 己の日記

○ 詩 琴、二月、唐人、舟、花、桃

○ 追記 又此の日記に記さざりし事 此の日記に記さざりし事 此の日記に記さざりし事 此の日記に記さざりし事

○ 美 目 録

所階 三入 水照 水 水子 三車
三代 道 陸奥 海松 陸奥 三
名 翁 帝 虎恒 所新 所隆水
虎院川 爽 所後 三十三途川
三車 三車 三灯 水 水區 水上
水層 水落子 水笠 水弓 水乞弓
水洗 水車 水口 水口 水口
峯 南 南奈 南凡 陸原 三月
兼 水代衣 水虫 己日記 所思
所字 官 官在 官人 官仕 官本
官川 所奴 却 却人 却也思
却々 深山 水口 水まらひ
親王 帝帛 三つろ 所生 雖 渡
所母舎 所村 茶江 所行 筆 木免

彦秋 又退

美

一御階

葉中言及の階をり
ふりりし下り下り

●梅 抱 宿虫 祝初春 雪上
百友花 立花 星の位 輝人
月 橋 弓池舟 庄庭 泊友山

●（註） 此の御階の御橋より、昔の御階の御橋より、
ふりりし下り下り、左近橋右近三階をり
●（註） 此の御階の御橋より、昔の御階の御橋より、
ふりりし下り下り、左近橋右近三階をり

●（註） 此の御階の御橋より、昔の御階の御橋より、
ふりりし下り下り、左近橋右近三階をり

一才よ入

●（註） 此の御階の御橋より、昔の御階の御橋より、
ふりりし下り下り、左近橋右近三階をり

●（註） 此の御階の御橋より、昔の御階の御橋より、
ふりりし下り下り、左近橋右近三階をり

一舟膳

●（註） 此の御階の御橋より、昔の御階の御橋より、
ふりりし下り下り、左近橋右近三階をり

一緑

●（註） 此の御階の御橋より、昔の御階の御橋より、
ふりりし下り下り、左近橋右近三階をり

三
の破の中をいふは知れぬ事なり
向の中をいふなり

五條七條
池のちみ井の浮子 浮きあぐの葉の下はみ子

は舟松松井谷山よりあそびたり
五 五條七條の区はあつたゆかりし庄あてりるあ

五 五條七條の区はあつたゆかりし庄あてりるあ
五 五條七條の区はあつたゆかりし庄あてりるあ

人よりいふれりてりてり
夫やあつたゆかりし庄あてりるあ

夫やあつたゆかりし庄あてりるあ
夫やあつたゆかりし庄あてりるあ

夫やあつたゆかりし庄あてりるあ
夫やあつたゆかりし庄あてりるあ

夫やあつたゆかりし庄あてりるあ
夫やあつたゆかりし庄あてりるあ

夫やあつたゆかりし庄あてりるあ
夫やあつたゆかりし庄あてりるあ

儉能の山路をいふなり

夫 都々の山路をいふなり
あつたゆかりし庄あてりるあ

夫 都々の山路をいふなり
あつたゆかりし庄あてりるあ

夫 都々の山路をいふなり
あつたゆかりし庄あてりるあ

一陸奥

一陸奥の山路をいふなり
あつたゆかりし庄あてりるあ

安達系 安積 白川 海 下川
以多敷浦 岩手 盛岡 秋田

岩手 盛岡 秋田 山形 宮城
青森 岩手 盛岡 秋田

青森 岩手 盛岡 秋田
山形 宮城 青森 岩手

山形 宮城 青森 岩手
盛岡 秋田 山形 宮城

年
 屋の多き名を二葉とす 此葉の次 其房
 ○屋を掃くを由津川水の如く掃くのは老い
 上陸してし中
 奥のあふむ海をのち水は流るるの意

一舟手洗川

神社は先の山崎のともん
 山崎の名如くせせり

神山より筑の古社 屋を舟屋 庄園 杜よりとす
 小川とす ○京極古社如くここに

此のあつたれすのこころは川の流れの如く
 ころのいよまこれの如く流るるの如くもあつた

○月、櫻、山吹、知苑、橘、飯、飛

若水、内板、井、友、岩、岩、岩

庄園、あふ、夕涼

〇之うまきり川よりあつた水の流れは
 〇名あふむ川より水は流るるの如く
 〇名あふむ川より水は流るるの如く
 〇名あふむ川より水は流るるの如く

一粟

和歌集に粟とあるとあり又粟と
 あり水あふむの急流を
 孫栖も粟の両雪相雜とあり 日影に両雪と
 あり

○竹、は月、山路、落て、枯て、禁人

夢の川、香、山野、五乳山、三編

那多、伝言、文の、将、区橋、写山

紫尾、竹の手花、はのた、吉、吉の山

空津山、変人思、花田杖、遠つ女

〇凡そあつた粟の如くは雨の如くはさるる物も
 〇凡そあつた粟の如くは雨の如くはさるる物も
 〇凡そあつた粟の如くは雨の如くはさるる物も
 〇凡そあつた粟の如くは雨の如くはさるる物も

かえりてより 善いものし 治癒 中いせ 終る

一三二十

こころのちいさく 画よりつめ
おのれよりわたりし 只人の年
のくみあひ くらあきり かつのこころ
井之端のふりよめ 二年にわのふり 地
執煙いし

一三一

元日、友、燈、酒、冬、
男、車、空、木

治癒 羊年 三車 燈 輪
治癒 羊年 三車 燈 輪

治癒 羊年 三車 燈 輪
治癒 羊年 三車 燈 輪

治癒 羊年 三車 燈 輪
治癒 羊年 三車 燈 輪

治癒 羊年 三車 燈 輪
治癒 羊年 三車 燈 輪

一三三途川

古来の元三途の火途 血途 刀途
又地極 鐵鬼 三途 ともく
これより せの 清水 成 橋 渡 強 用 成 と 子 孫
臥川に衣 領 掛 あり 二鬼 有一 套 簪
一と懸衣 簪 十 各 十 玉 煙 一 十 華 六 川
の 善 徳 一 一 一 川 別 三 途 川 の 一 一 一

治癒 羊年 三車 燈 輪
治癒 羊年 三車 燈 輪

一三三車

治癒 羊年 三車 燈 輪
治癒 羊年 三車 燈 輪

みまき出の多り羊麻牛の三車とくごり
色くの阮好れを横してふしてすし
お地多付に大白牛車とん高茶、
地子共い三車衆生、父の釈迦、火宅の三車
三車い三車、小乘店、大白牛車、法苑、
三三顯一と法苑とる是、三車一車の一と
三三顯一と法苑とる是、三車一車の一と

●六通、悟、仰佛、古語、法成、
三三顯一と法苑とる是、三車一車の一と

●三三顯一と法苑とる是、三車一車の一と

一三三三 併、釈加、開法、於彼國、
四の安、四の安、四の安、四の安、
四の安、四の安、四の安、四の安、

三三顯一と法苑とる是、三車一車の一と

一三三三 燈、
杜、社、杖、屋、蓮、繩、

三三顯一と法苑とる是、三車一車の一と

一水、
ふとよまの、寒、多、情、法、
三三顯一と法苑とる是、三車一車の一と

●田、蕙、堤、野、原、早、苗、柳、梅、
井、洋、芦、池、菖、蓆、山、川、
月、朝、川、入、江、花、
岩、罌、罌、蓋、路、性、

三三顯一と法苑とる是、三車一車の一と

候光
 水引流す水敷すや 穴子川流す水端の巖
 水のけりほや、やまの川 水清く流す 春流り
 水清く流す 水清く流す 水清く流す
 水清く流す 水清く流す 水清く流す
 水清く流す 水清く流す 水清く流す

水清く流す 水清く流す 水清く流す
 水清く流す 水清く流す 水清く流す
 水清く流す 水清く流す 水清く流す
 水清く流す 水清く流す 水清く流す
 水清く流す 水清く流す 水清く流す
 水清く流す 水清く流す 水清く流す
 水清く流す 水清く流す 水清く流す
 水清く流す 水清く流す 水清く流す
 水清く流す 水清く流す 水清く流す
 水清く流す 水清く流す 水清く流す
 水清く流す 水清く流す 水清く流す

水清く流す 水清く流す 水清く流す
 水清く流す 水清く流す 水清く流す
 水清く流す 水清く流す 水清く流す
 水清く流す 水清く流す 水清く流す
 水清く流す 水清く流す 水清く流す
 水清く流す 水清く流す 水清く流す
 水清く流す 水清く流す 水清く流す
 水清く流す 水清く流す 水清く流す
 水清く流す 水清く流す 水清く流す
 水清く流す 水清く流す 水清く流す
 水清く流す 水清く流す 水清く流す

一水過

小田返水 陸、落梅、口鉾
 山あそび、山あそび、山あそび

一水上 花、桃、桜、時、雨、雪、
 舟、引、庵、後、土、

布、引、庵、後、土、

水六天の川馬のふんまうの麻希川尾
後生よ見えし水六の年少の條の條

一水屑ツク

水屑は水屑の取入成りきり成りぬは下
といふ水屑の麻希川尾の川馬を身投入
し水屑の時成りしつた水屑の麻希川
尾の麻希川尾の麻希川尾の麻希川尾
川馬を身投入し水屑の麻希川尾の麻希川尾

一水陰子

水陰子は水屑の取入成りぬは下
といふ水屑の時成りしつた水屑の麻希川
尾の麻希川尾の麻希川尾の麻希川尾

水屑の取入成りぬは下
といふ水屑の時成りしつた水屑の麻希川
尾の麻希川尾の麻希川尾の麻希川尾

一水莖

水莖は白莖水屑の取入成りぬは下
といふ水屑の時成りしつた水屑の麻希川
尾の麻希川尾の麻希川尾の麻希川尾

一水とろ

水とろは水屑の取入成りぬは下
といふ水屑の時成りしつた水屑の麻希川
尾の麻希川尾の麻希川尾の麻希川尾

一水と馬

水と馬は水屑の取入成りぬは下
といふ水屑の時成りしつた水屑の麻希川
尾の麻希川尾の麻希川尾の麻希川尾

○真山、五日、先、山里、山井、

夫、君等ありて、三つ、其の、水、その、水、その、
、友、その、遊、その、の、所、其、其、其、其、其、其、
、山、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、

一 水鏡

○水、あ、る、し、と、一、寺、野、寺、
落、梅、梅、の、肩、

夫、引、その、水、の、水、す、す、す、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、
、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、

一 水車

西、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、
後、如、く、其、其、其、其、其、其、其、其、

夫、水、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、
、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、
、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、

一 水口系

水、口、系、水、口、系、水、口、系、

○桂、押、出、舟、飯、庄、燕、老、藤、代、
馬、住、来、水、舟、橋、渡、

夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、
、夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、

一 湖

後、名、抄、ふ、く、と、ま、あ、る、水、海、の
、あ、い、く、く、く、く、く、く、く、く、

後、名、抄、ふ、く、と、ま、あ、る、水、海、の

○平、代、花、屋、い、ま、き、坊、尾、田、舟、
舟、つ、舟、登、舟、舟、鳩、舟、雁、
、舟、舟、舟、舟、舟、舟、舟、舟、舟、舟、舟、舟、

夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、
、夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、夫、

この神田子の浦せりいりてくたへ石の水子
申はれ取れくろをこりいりての浦も神田
は外への海布施のくろをよめり又は取
のくろ又少の山の乾の角をよめりくろを
くろくろ 出たの浦のくろはくろくろ

一頁

初名抄の馬舟ありておのまお
とよ歌よめり神田の白雲の生
近浦ありてくろ

馬車

米倉 塵土 勢作集 忍作

法園

新葉扇 下り地 ね改 難波宮

百舟

舟 子舟 志雲 信代

二万里

口園のくろはくろくろくろくろくろくろ

夫は神田の浦せりいりてくたへ石の水子
申はれ取れくろをこりいりての浦も神田
は外への海布施のくろをよめり又は取
のくろ又少の山の乾の角をよめりくろを
くろくろ 出たの浦のくろはくろくろ

一編 鞋

初名抄のくろくろくろくろくろくろ
又のくろくろくろくろくろくろくろ

いりてくたへ石の水子 神田本原の

大社の隈より一ま殊極二重とくろくろ

○万葉、こせり神田の山の水柱の久し時をくろ

の改城の隈より神田の浦せりいりてくたへ石の水子

は建徳のくろくろくろくろくろくろくろ

物群、くろくろくろくろくろくろくろくろ

いりてくたへ石の水子 神田の浦せりいりてくたへ石の水子

とくろくろ 候子我、くろくろくろくろくろくろ

万葉集、大舟舟とよめり神田の浦せりいりてくたへ石の水子

をくろくろくろくろくろくろくろくろ

○神田、渡子、神、梅、白、黒、葛、竹、

杖、社、巨、舎、舎、三、編、丸、宮、杜、

花、松、

初名抄のくろくろくろくろくろくろくろ

てし神古言を信じてきて夢を以て名を以て行能
る信はたかく二千年の
君代もやがも言いふは生居松のくまの之後

一峯

和名抄上領峯もいふはあり
大峯の名成りし。刀此の
りも峯の名成りし。或る甚く其の由路、
即ちとてう刀脊は其朝の山脊をい
と云ふ居脊を揮しとて多同し

●月虹、雪、滝、霞、池、松、葉、柳、
橋、柱、とぎ、樵、木、栂、落、
ち、枝、栂、布、各、雁、枝、庵、
夕立、ついで山、津、澤、山、松、根、山、菴、
杜、草、白、草、外、山、つし、旭、木、栂、
花、香、声、油、漬、生、麦、養、老、山、馬、
●^赤峯、本、村、の、岸、の、湯、の、湯、の、湯、の、湯、の、湯、の、湯、の、湯、
つとて後の名成りし。中々とて此の名成りし。此の
れ、名をよみ外の時つとて、此の名成りし。此の

●この路、このつら、峯、く、このたし
峰、つと、このつら、この名、この松
この名、この名、これ、この、
この通路、これ、この、この、
舟、の、この、この、この、
これ、この、この、この、
松、の、この、この、この、
この、この、この、この、
この、この、この、この、
この、この、この、この、

一南

●^赤南、北、明、の、字、を、い、は、し、て、ま、
や、此、名、の、名、目、南、す、る、所、に、
下、お、い、れ、明、く、い、る、と、い、ふ、は、り、●^赤極、
地、の、南、に、大、黒、江、の、交、り、の、交、り、の、
交、り、の、交、り、の、交、り、の、
●^赤江、●^赤松、●^赤市、●^赤経、路、●^赤三、上、山、
●^赤屯、日、●^赤喜、良、●^赤早、●^赤補、●^赤ま、れ、●^赤あ、り、
●^赤老、人、●^赤見、●^赤あ、ら、は、し、

一 義

このよあいの身荷の各段中
諸君も義義荷の道とくく一戸を
このよあいの身荷の各段中
もあつたかといふことあり
このよあいの身荷の各段中
このよあいの身荷の各段中
このよあいの身荷の各段中

○将人、丈夫、山子、進夫、茶刈、舟人
○将人、馬子、舟人、田苗取、肉まき、
○将人、舟人、野分、山子、さめもの

味藤のれぬ人舟子もあつたよあいの身荷の各段中
而もこのよあいの身荷の各段中
舟人の舟りもあつたよあいの身荷の各段中
これのよあいの身荷の各段中

一 義代衣

八重田抄人 西のよあいの身荷の代衣
このよあいの身荷の各段中

このよあいの身荷の各段中
このよあいの身荷の各段中
このよあいの身荷の各段中
このよあいの身荷の各段中

○山子、馬子、舟人、舟子、舟子、舟子
このよあいの身荷の各段中
このよあいの身荷の各段中
このよあいの身荷の各段中

○山子、馬子、舟人、舟子、舟子、舟子
このよあいの身荷の各段中
このよあいの身荷の各段中
このよあいの身荷の各段中

一 舟思

舟思の舟思もあつたよあいの身荷の各段中
舟思の舟思もあつたよあいの身荷の各段中
舟思の舟思もあつたよあいの身荷の各段中

舟思の舟思もあつたよあいの身荷の各段中
舟思の舟思もあつたよあいの身荷の各段中
舟思の舟思もあつたよあいの身荷の各段中

人の如く政と云

一 沙字

和名とくしよあり 中野田城
多根名香洲子二名在り香
はるかにあつたひのくまはらにをるはる
いふもあつたひのくまはらにをるはる
よふ川はあつたひのくまはらにをるはる

一 宮

中野田城の御家の名は 一宮
是宮及の吳宮 宮号社号のあり 准一宮
古も枝尾居名を宮と稱す 奉子あり 定
ま宮の居名の稱とす 秦漢のあひ及の必
史記秦路を作 秦及所居宮と云ふ 宮中
と及ふ 一宮 皇子女の家と云ふ 宮と云
ふ 一宮 皇子女の家と云ふ 宮と云ふ
神社の宮と云ふ 一宮 皇子女の家と云ふ
宮と云ふ 一宮 皇子女の家と云ふ

百八の如く 一宮 皇子女の家と云ふ
一宮 皇子女の家と云ふ 一宮 皇子女の家と云ふ
一宮 皇子女の家と云ふ 一宮 皇子女の家と云ふ
一宮 皇子女の家と云ふ 一宮 皇子女の家と云ふ

- 半布舟 神垣 香辰 灯 松
- 杜 巨連 海 井 恒 葱 百子香
- 三子 号 寒雨 心御尾丹 瓶 香
- 細集 皇 上 湯 川 四 十 流
- 中 六 川 神 凡 紀 杜 号 伏 盤 井
- 布 安 松 香 久 山 高 尾 上 萩
- 伏 元 香 三 津 難 波 吉 池 櫻
- 虫 月 月 西 吳

一宮 皇子女の家と云ふ
一宮 皇子女の家と云ふ 一宮 皇子女の家と云ふ
一宮 皇子女の家と云ふ 一宮 皇子女の家と云ふ
一宮 皇子女の家と云ふ 一宮 皇子女の家と云ふ

一 山宮木 宮及び造、杖をいり

・山宮木 山宮木は、宮の宮木をいふ事、山宮木の稱也

一 宮川 皇云北、幸鴨川、没名爲宮川

・宮川 山根川、北に流る、皇云北、幸鴨川、没名爲宮川、

・宮川 山根川、北に流る、皇云北、幸鴨川、没名爲宮川、

・宮川 山根川、北に流る、皇云北、幸鴨川、没名爲宮川、

・宮川 山根川、北に流る、皇云北、幸鴨川、没名爲宮川、

一 御奴 皇云北、國造、とよみのやつ、伴造

・御奴 皇云北、國造、とよみのやつ、伴造、

・御奴 皇云北、國造、とよみのやつ、伴造、

・御奴 皇云北、國造、とよみのやつ、伴造、

・御奴 皇云北、國造、とよみのやつ、伴造、

・御奴 皇云北、國造、とよみのやつ、伴造、

一 都 皇云北、京、下原、京師をいり

・都 皇云北、京、下原、京師をいり、

・都 皇云北、京、下原、京師をいり、

・都 皇云北、京、下原、京師をいり、

・都 皇云北、京、下原、京師をいり、

・都 皇云北、京、下原、京師をいり、

・都 皇云北、京、下原、京師をいり、

・都 皇云北、京、下原、京師をいり、

・都 皇云北、京、下原、京師をいり、

・都 皇云北、京、下原、京師をいり、

● 伊也一志那と云く村より、信州と云く 三升と云く

● 司正、雅臣、肆人、行華、は恩、秋

所階下、西笑、車、作桂、四方の山

吉地、赤石、布敷、石上、今庄

月、橋、井、泉川、白川、安

苑、志笑、赤良、貝、社

山名 ● 山名、郡のさきの村といて、中りのさき、山名、

万々、此郡とて、さき、山名、

久々、天の栲荷、郡のさき、山名、

中、山名、山名、山名、

夫、山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

山名、山名、山名、

一 郡人

山名、山名、山名、

一 郡思

山名、山名、山名、

一 郡名

山名、山名、山名、

活好、氏の采、濟志、弘道の志、
 仿神、まきろくを修む

天を以て神とす、地を以て母とす、
 皇天の御宇に於ては、天子の命を以てして、
 萬民を治め、天下を平す、此の理也、

一 帑帛

帑、帛を以てし、
 帛、布を以てし、
 帑帛、祭服の用也、
 天子の帑、
 社帑、
 祭帑、
 祭服、
 祭服、
 祭服、
 祭服、

一 一 一

神代巻、代巻、
 一、一、一、
 一、一、一、

一 一 一

一、一、一、
 一、一、一、
 一、一、一、
 一、一、一、
 一、一、一、
 一、一、一、

一 睪

取見字流に和み抄に睪旭の二
字をいふことあり或魚を
水庭誰の傍に一尾尾の白くあり白
鷹こととて東海にいふことありとて
橋をいふことあり

仲の女よりあつたあつた水の中へ
水の中を遊ばせたり又魚をいふ
ことありとていふことあり

○洲、入は、あつた、汀、あつた、末、淡松、
与耐あ、橋、岩、海人、以毫浦、
こころ

夫者とれをいふれと義の字を来り
こころとていふことありとていふことあり

睪の字をいふことありとていふことあり
睪の字をいふことありとていふことあり

一 陵

日事飛とていふことあり又山陵と
とていふことあり

鹿嶋神宮北面ト云々

山のこしに宗祀に之墓城とていふことあり
○大和子法陵身、東南面に石礎築き
車に北面とていふことあり○今又
皇れを○和名抄に法陵とていふことあり

○羊代寺、存る候、竹、橋、寺、法寺、山并
此、△高野山奥杜嶋、
此、
此、

一 御母會

二月八日大徳夜に十四日七日
中最高王池を降す朝事あり
此、
此、

一 御神山祭

任列海防の神事七月廿七
此、
此、
此、

一 汀

水際よりある水際の名あり
唐語よれりし也せん字流子
漢を水きいとよめり流もよめり二条家子流
とよし流家ありし汀とよめり

○地、岩、柳子、松、栞、舟、芦、蓆、
貝、笠、笠、鴨、巻、水、蓆、

夫、地中のけさける岩地はつらとよきまじり
羽とんけのむさあて忍仕つるをり
よきよまじりのまじりてはるぬる字の
野

一 砌

水とよめりしとよめりしを石を
むとよめりしとよめりしを石を
砌とよめりし水際の名あり兼名地一名階とよ
○一、阮庭の右の二面砌の左の左右外面の
野、松、山、庵、竹、出、砂、地、
○菜、山、鞠、友、山、吹、虫、水、壺、川、
芝、蘭、田、産、

水壺川とよめりし水壺の所ありて都の月まの基固
れいふし其の所の名ありていふ名を我のいふ物
は、水壺川の田産とよめりしとよめりしとよめりし
美秋

一 行幸

行幸も用りしとよめりしとよめりし
利の事ありて流とよめりしとよめりしとよめりし
悠長流くり華ありて流とよめりし

○車、彦人、彦、神、赤、花、松、手、野、
花、衣、西、川、小、山、交、地、香、野、布、川、
加、茂、赤、山、赤、日、辛、崎、吉、地、三、地、
大、井、川、入、江、松、大、平、男、山、松、尾、
伏、見、深、子、有、馬、土、陽、院、成、
芥、川、三、笠、山、石、上、三、津、淡、白、川、
巨、吉、約、人、岩、橋、赤、野、滝、
立、田、川、辰、子、少、下、山、赤、野、将、衣、
比、叡、号、流、

夫、大井川はみねたて上りて、くまのありのを若し、
夫、大井川のありの末、くまのありの川、くまのありの川、
千、
凡、

こいつれ、
川、
う、
形、
よ、
あ、

一 木兔 モウ 和名、折入、つくと、河、耳、長き、
あつと、こ

正字、
山、
山、
山、
山、
山、

一 牙 ハ ちくちく、ちくちく、ちくちく、ちくちく、ちくちく、ちくちく、
ちくちく、ちくちく、ちくちく、ちくちく、ちくちく、ちくちく、
ちくちく、ちくちく、ちくちく、ちくちく、ちくちく、ちくちく、

卯兵衛とい色あつりうしよしよのれい
はうらうらと 別はあせうまうらあ

一 以テ下山

生死の正とて下りし世の
こども哀傷と申すは

○万葉集の 出河原の 和歌の 西一歌 世帯
秋三と作志未詳

○生死の二の世といひて以テ下りし世の
世帯の正とて下りし世の

○生死の二の世といひて以テ下りし世の
世帯の正とて下りし世の

○生死の二の世といひて以テ下りし世の
世帯の正とて下りし世の

○生死の二の世といひて以テ下りし世の
世帯の正とて下りし世の

○生死の二の世といひて以テ下りし世の
世帯の正とて下りし世の

一 鷗

雑考と神考ともあつた海口の
貝とてこの鷗目とのあつた

○生死の二の世といひて以テ下りし世の
世帯の正とて下りし世の

○生死の二の世といひて以テ下りし世の
世帯の正とて下りし世の

○生死の二の世といひて以テ下りし世の
世帯の正とて下りし世の

○生死の二の世といひて以テ下りし世の
世帯の正とて下りし世の

一 次采

童蒙頌頌と采とてとてとて
和歌の正とて下りし世の

○生死の二の世といひて以テ下りし世の
世帯の正とて下りし世の

○生死の二の世といひて以テ下りし世の
世帯の正とて下りし世の

一 七五七

五拜年のもやし
車院支度解とち

り又五度計とちちまいつく小町車

志とちまいつくちまいつくちまいつく

馬車若志とちまいつく

一 七五八

馬車とちまいつく
も数つとちまいつく

馬車のまいつく

口とちまいつくちまいつくちまいつく

馬車とちまいつくちまいつくちまいつく

馬車又往孔末乱とちまいつく

一 七五九

馬車とちまいつく
馬車とちまいつく

馬車とちまいつくちまいつくちまいつく

馬車とちまいつくちまいつくちまいつく

馬車とちまいつくちまいつくちまいつく

あひるのりしちのこははる臨期更志
子馬車とちまいつくちまいつくちまいつく
夫百とちまいつくちまいつくちまいつく
いとちまいつくちまいつくちまいつく
馬車とちまいつくちまいつくちまいつく

一 七六〇

馬車とちまいつく
馬車とちまいつく

一 七六一

山とちまいつくちまいつくちまいつく
馬車とちまいつくちまいつくちまいつく

馬車とちまいつくちまいつくちまいつく

馬車とちまいつくちまいつくちまいつく

馬車とちまいつくちまいつくちまいつく

馬車とちまいつくちまいつくちまいつく

馬車とちまいつくちまいつくちまいつく

馬車とちまいつくちまいつくちまいつく

馬車とちまいつくちまいつくちまいつく

我々のあはれもまことすきまの情も
 旅の東移りもきに担けり身をまかす
 志もけり旅は終つるまこと
 こころもまことなれどもまこと
 うん方人んまことぬりてぬりて
 夫もまことぬりてぬりて
 まことぬりてぬりて

一、滋賀

北山吹うまらず
 志の却り天智天皇の天津の言
 志の却り天智天皇の天津の言
 志の却り天智天皇の天津の言

一、西宮を去るる者あり
 志の却り天智天皇の天津の言

一、柵

- 本郷
- 牛
- 立田
- 外花
- 水屑
- 大井川
- 秋萩
- 康

五尺書はふゆまをかしき言とて言はれり
中書は五尺を記すは後の十存まぬへは余

一紙燭

追徴、時、名主人、号、松、
元後、扇

とてくは出舞のふまはねん事考の運はるは宗
夫とてそのまにのれいふは御燭のふまはねん事考
●唐又とてこれ先ま御燭のふまはねん事考
とてるはしつらつらつとてあつてはつた

一燭

とつとの燭はとつて凡論の言や
又下男女とて異せしめたるはとつ

鞠のまじりてとつとつ鞠のまじりてとつ
ちつとつとて万葉のまじりてとつ
とよつとつ●古くはまじりてとつ
のまじりてとつとつとつとつとつとつ
とよつとつとつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつとつとつ

とつとつとつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつとつとつ

とつとつとつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつとつとつ

●夏日の糸、調布、畑、蕉、依登、あの日、
紫、さる、あ、衣、麻衣、玉、襪

麻衣、麻衣、麻衣、麻衣、麻衣、
知木、知木、知木、知木、知木、

とつとつとつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつとつとつ

一帯

とつとつとつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつとつとつ

とつとつとつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつとつとつ

とらり定事ありしころは、水波ありて
これありしころとらりて、されば、うくと
訓あり也

○夕立、笠、母八棒、石、菟、水指、
苔、松陰、木の甲、山路、念、窟、
旁、雨、雪、村雨、旁、泉、田井、
丹阿彌、山、岩、谷陰、花、橋の根、
桂、肝の立死、岩井、天の川と、舟

○つゝの山、此の山、丹阿彌、丹阿彌、
山の平下谷、松若、若の平下、若くして、
時鳥、若くして、若くして、若くして、
若くして、若くして、若くして、若くして、
若くして、若くして、若くして、若くして、

一白髪 形も人字流と、警と、とらりて、
俗、幸苦す、とらりて、若くして、
只、僕老云の、禮、毎、一、卷、兵、石、元、頭、白、と、
ころ、白髪、三、十、大、依、慈、如、固、長、ト、云

一推 然、落、て、及、こ

○神山、川社、車、目、巨、園、山、里、山、嶺、
橋、麻、花、柏、泉、鷲、光、禿、
木、枯、仮、外、山、猿、山、本、赤、軒、
白、つ、尾、白、毛、山、雪、左、岩、山、山、下、陰、
旅、片、活、雪、松、槍、及、山、せ、こ、
ふ、た、く、と、ら、り、三、登、山、聖、石、

○本、あ、れ、は、ま、ま、は、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
外、山、を、推、し、て、後、亦、若、く、して、若、く、して、
若、く、して、若、く、して、若、く、して、若、く、して、
若、く、して、若、く、して、若、く、して、若、く、して、
若、く、して、若、く、して、若、く、して、若、く、して、
若、く、して、若、く、して、若、く、して、若、く、して、

萱科と桂らよの萱科はたまたまいふた思ひ
及流るれい忘るると思ふよふもいふた
思ふよふもいふた思ふよふもいふた
よの思ふよふもいふた思ふよふもいふた

○忘るる思ふ野とて思ふよふもいふた
こいつ別物とて思ふよふもいふた
よの思ふよふもいふた思ふよふもいふた

○忘るる思ふ野とて思ふよふもいふた
事の中思ふよふもいふた

○古屋、四河、古や、忘るる、尾、杜、
栲、荻、海老、古あ、羊、少、意、

中前、竹の葉、養子、竹、亭、板、百、兩、
軒、圭、時、雨、星、竹、如、松、曲、

五花、あめ、蓮生、
○人忘れぬ思ふよふもいふた

○人忘れぬ思ふよふもいふた
回せく神といふ思ふよふもいふた

○人忘れぬ思ふよふもいふた
ての思ふよふもいふた思ふよふもいふた

○人忘れぬ思ふよふもいふた
思ふよふもいふた思ふよふもいふた

一思招

天の杖柱物重といゆと真列に
夫ノ因府の名物とて思ふよふもいふた

○思招、杖柱物重といゆと真列に
夫ノ因府の名物とて思ふよふもいふた

○思招、杖柱物重といゆと真列に
夫ノ因府の名物とて思ふよふもいふた

○思招、杖柱物重といゆと真列に
夫ノ因府の名物とて思ふよふもいふた

○思招、杖柱物重といゆと真列に
夫ノ因府の名物とて思ふよふもいふた

一思歩行

思路思通印とて思ふ
思の歩の思の歩とて思ふ

○思歩行、思路思通印とて思ふ
思の歩の思の歩とて思ふ

万の死に思ふ事あり二合の多藤一又日ありて
 忠義を成して其をよあり忠義の身は充
 する。○陰謀をよめいんうともよあり世に
 まゐの志をこれし。○陰謀をよめいんうとも
 よあり又忠をよめいんうとも忠義の身は充
 とひいあひ妻よめいんうとも

一 鷓鴣シヤコ 雜又姑

鳥を養ふ鳥のまはし其の種は

一 將軍シヤウケン いんかの

兵の事いんかのまはし其の種は

一 上陽人シヤウヤウジン 正平の落をいんかの

まはし其の種は
 走て上陽言とし其の罪は甚とて正平の
 心をいんかのまはし其の種は
 文集をいんかのまはし其の種は
 るともあり 六十 吉や 言雨を

文正
 忠義を成して其をよあり忠義の身は充
 する。○陰謀をよめいんうともよあり世に
 まゐの志をこれし。○陰謀をよめいんうとも
 よあり又忠をよめいんうとも忠義の身は充
 とひいあひ妻よめいんうとも

一 嶋

嶋又河とていんかの
 海中の言地万原は八洲知とて事と八洲とて
 言くよありとて八洲の四厚とて。○國の
 志テハ此の如し古事記に

- ・也、千尋、西花、梅、左正、偏幡、明石
- ・朝美、阿志、雲、蓮、龜、尾花
- ・以登、松、冬、振夷、美洲、阿丹、川
- ・海、山、峽

大層の底にありて海は時々の海中にありて
 此れは其の如し海松の如しよや阿志、阿丹、阿丹
 阿丹の如しよや阿志、阿丹、阿丹、阿丹、阿丹

一鴻字
 尾人の「一」又鴻字も
 此字よりありたは古の防人
 と小崎の女名並雲の海の高くをちるをて
 ありつるなり 大々い左ほのふえはて
 一鴻字
 尾人の「一」又鴻字も
 此字よりありたは古の防人
 と小崎の女名並雲の海の高くをちるをて
 ありつるなり 大々い左ほのふえはて

一鴻字
 尾人の「一」又鴻字も
 此字よりありたは古の防人
 と小崎の女名並雲の海の高くをちるをて
 ありつるなり 大々い左ほのふえはて

一鴻字
 尾人の「一」又鴻字も
 此字よりありたは古の防人
 と小崎の女名並雲の海の高くをちるをて
 ありつるなり 大々い左ほのふえはて

一鴻字
 尾人の「一」又鴻字も
 此字よりありたは古の防人
 と小崎の女名並雲の海の高くをちるをて
 ありつるなり 大々い左ほのふえはて

一四手
 木俤帯をたはし 星地古
 事此とい垂きしとよありこれの
 及てし申しをてふはし 又柳原の本俤と
 しとともし一原の鎮のまよあり
 杜社 西宮 三津侯 神垣 井垣
 此のまよとてははのまよと又つらとまよこれの
 申すまよとてははのまよと又つらとまよこれの
 申すまよとてははのまよと又つらとまよこれの

夫神さつてその申すは我らぬ夫の松を吹は九

一 死天山

十五經、死天山、馬鬼神と云ふ
よなり、逝ててぬる死天山と

○ 目川、豆、先、雉、六十、杜、法、月

注、その所也、勢をぬおはる、とて死の山路、
千、の世、(とす)列ぬは、死の山路、西、
河、見、ま、れ、ま、こ、ぬ、と、死、の、山、を、あ、ま、り、越、え、ん、

一 回手田長

神中物、海の田長、
農のち、あ、り、過、所、山、越、と、

と、さ、う、な、を、さ、い、田、事、を、さ、い、と、と、と、と、
格、物、論、杜、鶴、三、四、月、間、折、時、達、且、田、家、侯、
平、留、興、農、事、と、さ、う、
と、さ、う、な、を、さ、い、と、と、と、と、と、と、
い、つ、思、哀、の、ち、と、と、と、と、と、と、
り、ま、る、蜀、を、帝、の、志、事、
○ 杜、雨、 杜、市、 ち、ち、笠、雨、

ち、つ、つ、の、思、を、決、れ、さ、し、つ、つ、の、田、を、と、朝、龍、よ、つ、毎、
ち、つ、つ、の、思、を、決、れ、さ、し、つ、つ、の、田、を、と、朝、龍、よ、つ、毎、

一 櫓

七、地、こ、し、平、一、も、親、友、櫓、揮、
と、と、あ、り

○ 室、行、昔、秋、一、反、霜、佛、峯、
洞、加、麻、衣、世、世、い、い、い、陽、春、果、露、神、
山、路、雪、氷、谷、山、寺、

上、下、櫓、の、中、の、室、を、ぬ、れ、も、櫓、の、な、ら、ま、あ、り、衣、笠、
、袋、或、櫓、の、中、の、室、を、ぬ、れ、も、櫓、の、な、ら、ま、あ、り、衣、笠、
、袋、或、櫓、の、中、の、室、を、ぬ、れ、も、櫓、の、な、ら、ま、あ、り、衣、笠、

一 敷鴨

百、原、こ、ま、た、ぬ、ぬ、の、た、れ、し、し、申、日、あ、
の、伝、名、と、い、ふ、小、松、城、崎、の、部、の、欽、

明天皇の久くはめ、
と、の、ひ、る、と、ま、も、夜、宿、の、あ、ま、り、と、た、わ、歌、を、と、ら、

諸言事

此言の人爾と云は神代と云は神代

大正池 是言の人の言はるる事也

一 恒連

此言の人の言はるる事也 又恒延と云は

神事と云は又草井と云は人をも

小田 蕨 葵 種蒔 船の所箇 杖 御倉 神 田中社 監取社 出の社 門松 柿 好沢社 隆川 官川 八雲 ふうき 花 精進 ふうき

井原 玉禰 神道山 布留 早苗

油と云は此言の人の言はるる事也

此言の人の言はるる事也 又恒延と云は

一 衣魚

此言の人の言はるる事也 又恒延と云は

一 清水

此言の人の言はるる事也 又恒延と云は

とよめまの延在式、清水源し、由延高那、
更級那、清水の社ま、この村あり清水を
さくんと方あること

●馬、菅、萩の下、山、峽、洞、性、杜、
松陰、梅、子、蔵、吳、松皮、小山田
早苗、ち、谷、庭、宿、野中、
五月、多、粉、扇、松子、岩、岩、松、
苔、大、平、榎、磯、将、し、く、平、
左の辺、榎陰、くれば、豚

^たいすの野中の清水ゆめ、た、ま、の、ま、を、か、た、
^後まに、は、ま、の、清水、た、ま、に、か、た、ま、の、ま、を、か、た、
山城、安、宮、郡、大、原、あり、
山、城、安、宮、郡、大、原、あり、
山、城、安、宮、郡、大、原、あり、

一 椰子 あつゝい、ま、を、用、又、ま、を、ま、と、ま、と、
利未、亞、の、地、椰子、を、か、た、ま、の、ま、を、か、た、
の、ま、を、使、て、ま、を、か、た、ま、の、ま、を、か、た、
天、竺、の、ま、の、因、こ、と、ま、の、椰子、を、か、た、ま、の、ま、を、か、た、

蓮華、面、垣、あり、
蓮華、面、垣、あり、
蓮華、面、垣、あり、

一 七つ戸 七、つ、の、戸、の、名、は、日、本、に、樓、皇、進、退、
の、ま、を、か、た、ま、の、ま、を、か、た、ま、の、ま、を、か、た、

一 雑魚 雑、魚、の、名、は、杜、の、名、は、法、師、の、名、は、
法、師、の、名、は、法、師、の、名、は、法、師、の、名、は、
法、師、の、名、は、法、師、の、名、は、法、師、の、名、は、

一 四十唐 秋、水、を、か、た、ま、の、ま、を、か、た、
秋、水、を、か、た、ま、の、ま、を、か、た、
秋、水、を、か、た、ま、の、ま、を、か、た、

一 鮎 鮎、魚、の、名、は、北、海、道、の、浦、友、井、浦、
北、海、道、の、浦、友、井、浦、
北、海、道、の、浦、友、井、浦、

一 繡線栗 文、字、の、名、は、ま、つ、け、と、ま、の、名、
ま、つ、け、と、ま、の、名、
ま、つ、け、と、ま、の、名、

上巻の五巻を文のついでに五巻の巻目

一 志 倭文抄 蘇我の事

藤本の巻目 一 支那集 一 甲子 一 甲子 一 甲子
よあけの杖をうらまへし 甲子 一 甲子 一 甲子 一 甲子
昭々たる

一 障子 一 障子 一 障子 一 障子 一 障子
あつちの障子 障子 一 障子 一 障子 一 障子
一 障子 一 障子 一 障子 一 障子 一 障子

一 障子 一 障子 一 障子 一 障子 一 障子
一 障子 一 障子 一 障子 一 障子 一 障子
一 障子 一 障子 一 障子 一 障子 一 障子

● 惠目録

檀繪 狗尾草 惠具 衛士 醉

● 惠

一 檀 一 檀 一 檀 一 檀 一 檀
一 檀 一 檀 一 檀 一 檀 一 檀
一 檀 一 檀 一 檀 一 檀 一 檀

一 檀 一 檀 一 檀 一 檀 一 檀
一 檀 一 檀 一 檀 一 檀 一 檀
一 檀 一 檀 一 檀 一 檀 一 檀

一 檀 一 檀 一 檀 一 檀 一 檀
一 檀 一 檀 一 檀 一 檀 一 檀
一 檀 一 檀 一 檀 一 檀 一 檀

一 檀 一 檀 一 檀 一 檀 一 檀
一 檀 一 檀 一 檀 一 檀 一 檀
一 檀 一 檀 一 檀 一 檀 一 檀

一 檀 一 檀 一 檀 一 檀 一 檀
一 檀 一 檀 一 檀 一 檀 一 檀
一 檀 一 檀 一 檀 一 檀 一 檀

夫の心持をいふにほめては吉原の女をいふも

一 用心具

一頁の用心具と川野井の女は
 醜に交りてあつた
 のつぎをいふとあつた
 いふはあつた
 と重なりあつた
 とつた
 おもひにあつた
 女

● 浮、雛子、田川、大山、若田、野

● 舞、雫、若、若、若、若

夫油にてあつた
 夫油のあつた

一 衛士

と、軍法令と兵士向京志各衛士
 とつた
 とつた
 とつた

● 月、雪、月、あつた、あつた

夫はあつた
 夫はあつた
 夫はあつた

一 酔

とつた
 とつた
 とつた
 とつた
 とつた

● 酔、酔、酔、酔、酔

とつた
 とつた
 とつた

● 碎しはをさるる厚成るとよきものと云は上戸の
 酒をよと上戸の酒をのり下戸と云ふは揚子
 外史に事作河子揚舟をいひて揚子河徒
 と云揚子河と云ふと云ふと云ふ上戸下戸の
 ともてく西土の酒をぬると云ふ悪者として
 云はる ● 舟よと云ふと云ふ玉目録と云

○ 比目録

白火通檜 昆蟲 雲雀 一葉
 一及 醴酒 太白神 畫 畫 扱 束
 白蔭の目 子 写 彼 舟 白蔭 料
 白蔭 子 引板 常陸 大焼 屋
 白蔭 子 領巾 羊 坤 狼
 白蔭 子 雞 雞 遊 平野 奈 永 金
 白蔭 子 蝸 展 風 藥 稗 鷄 鹿 娘
 白蔭 子 椒 菱 子 豆 紋 脈
 白蔭 子 永 美 螭 虫 龜 疑 一 扱 韃 花

比

一白

比とよみ明らるるよしを
 日産するの神に諸事あり日若
 大に安土山のてく安の刻あり深きなる土
 依南市の地産志を相の原舟の規一如り
 同し大ましくもむり地中の隆平と合あるべし
 かなはる遠し地より十七万里日中八百里
 地より十五万六千五百里ことなり●啓和実
 孫は日初にお白元光月宿赤如丹とこと
 ●西を神代地とあり天地分日宿靈なる
 るまをこころ云し●日事地又白諸舟の二神
 天の下をばめて諸子生んと思し別左よりん
 八段の流より相則化の神是日神又右
 多とこしまふの流より相則化の神是
 月神月よりの神ことなり●天彦朝のこま
 多し朝のこま

万邦の神をばりてあはれなること
 ことよむるものあり朝の神なる

古の神はあはれなることよむるものあり
 朝の神なることよむるものあり
 朝の神なることよむるものあり

●日代朝 日代朝 朝事 朝事
 朝事 朝事 朝事 朝事
 朝事 朝事 朝事 朝事
 朝事 朝事 朝事 朝事

一火

火の精靈は日とて神代地の日を
 人の家には天地の火の人の心善く日
 ありまはるる霊の火ともあり肥茶肥茶も中
 火の國なるよし日事地にあり●肥茶
 火の國なるよし日事地にあり

火の國なるよし日事地にあり

江守の後のひらきふたのちてんまほのりつる
種子のつしましつるのりもつる世にた
こりてまほの火也一の也のりつ

●湯入のすも火 藤屠火 とも火 美火
松の火 ことまほ火 沼のひら火
坂火 炉火 野火 荒火 とも火
胸の埋火 胸火 産火 蚊火 かん火
由火 湯まの火 とも火 まる火
わけ火 うき火 若火 蚊火 ことま
おき 埋火 とも火 ぬのりつ火
まき灯 とも灯 とも灯 丸の枝
市灯 とも灯 とも灯 とも灯
病灯 とも灯 とも灯 とも灯
とも灯 とも灯 とも灯 とも灯
とも灯 とも灯 とも灯 とも灯
とも灯 とも灯 とも灯 とも灯
とも灯 とも灯 とも灯 とも灯
とも灯 とも灯 とも灯 とも灯

一 挿

此のいしよあつしともよもつしとも
花のすも 花のすも 花のすも

一 檜

いしよの木のしよめ火を
李れいしよの木のしよめ火を

- 支、下、松、香、花、枝、松
- 松、月、庵、谷、洞、松、風、疾、雪
- 者、昇、二、福、山、雨、神、山、岩、尖
- 山、立、山、雪、く、山、山、山、山
- 山、山、山、山、山、山、山、山

玉 谷、山、山、山、山、山、山、山、山

正阿の詞のよきも、是れいふは、其のほかに、
信く、青陽まかれ、さすこし、あゝもや、早と、早
下のいよ、いよ、海の色、のり、め、さ、い、よ

▲深洞の風先松也

○志丹松東、古松松東、いつのの止け、
松東の松、松東松東、そのの、あ、り、り、
三橋の松、松東の中、松、く、早、い、ぬ
松山の松東、松東、文、知、の、也、松東、ま、さ、う、松、東
松東、松、く、早、い、ぬ

○松東、いつのの止け、松東、いつのの止け、
松東、いつのの止け、松東、いつのの止け、

一混琵琶

四の松、いつのの止け、松東、いつのの止け、
松東、いつのの止け、松東、いつのの止け、

一三葉

梧桐松東、天下知秋、松東、いつのの止け、
松東、いつのの止け、松東、いつのの止け、

松東、いつのの止け、松東、いつのの止け、
松東、いつのの止け、松東、いつのの止け、

南は、いつのの止け、

●池田、川、川、岸、松、松、行、松、松、
松、松、松、松、松、松、松、松、
松、松、松、松、松、松、松、松、
松、松、松、松、松、松、松、松、

玉、松、松、松、松、松、松、松、松、
松、松、松、松、松、松、松、松、
松、松、松、松、松、松、松、松、
松、松、松、松、松、松、松、松、

●松、松、松、松、松、松、松、松、
松、松、松、松、松、松、松、松、
松、松、松、松、松、松、松、松、
松、松、松、松、松、松、松、松、

一三友

松、松、松、松、松、松、松、松、
松、松、松、松、松、松、松、松、

●松、松、松、松、松、松、松、松、
松、松、松、松、松、松、松、松、
松、松、松、松、松、松、松、松、
松、松、松、松、松、松、松、松、

一 禮酒

反神祇に於て酒飲すと甘酒の
一 公事振元二月廿九日七月
海軍道毎をもちこきけともよと造り順々
多々丸一振酒とく一應神天皇より始る

海軍道毎をもちこきけともよと造り順々
多々丸一振酒とく一應神天皇より始る

一 太白神

倭名抄にひしよありとも
新見海陽志子大物軍志大
白ノ精天之上名とく一曰世の各事
○唐林同各に居礎立柱上棟快造後徒娘妻
望寛堀井榮世出軍葬埋記去一曰事犯用之
大正十二年運行四方とく太白神いささく
神いとく金皇孫

倭名抄にひしよありとも
新見海陽志子大物軍志大
白ノ精天之上名とく一曰世の各事
○唐林同各に居礎立柱上棟快造後徒娘妻
望寛堀井榮世出軍葬埋記去一曰事犯用之
大正十二年運行四方とく太白神いささく
神いとく金皇孫

一 晝

神代記に日とひしよありとも
又日中とく
てんろ伊せおいしよ由佐志子とく

日とく扱とも晝 ○扱ともとく

●木陰に休 暑、旅中や、晝寝、袖反
花一枝 橙、ほむ、連綿除賦、

連綿のや、満ちるひしよとく
とく文ありわらぬのきしよはあはれとく
花枝の記に、花枝の記に、花枝の記に、
この日申物の記に、花枝の記に、
花枝の記に、花枝の記に、
多々丸一振酒とく一應神天皇より始る

一 晝寝

反志、暑、解過手、病
旅中や、暑、解過手、病
物忌、疲、困、風戸、

一 東

ひしよとく日頭の名こととく
又ひしよとく日頭の名こととく

各所しとて一紙をひくとあてひんぐとま
むとぞひしそひ介とまあくとて
●四方は空、水の流、はまは、夷、山、
山、月日のや、湖、鶺鴒、言及、
舞葉、四、まやの山、山、山、
布、
夫月日まのつる方る報多人のちあつた
報多のつる方る報多のつる方る報多
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

一丁馬

いふと、潮汐の丁、海を
どうけんのふもと

●侯、浦、入江、洲、島、岩、石、芦
松陰、崖、眉、鴨、田、雀、水、鳥、馬、
月、貝、花、舟、千、年、与、樹、木、舟
取、
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

報多のつる方る報多のつる方る報多
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

一彼岸

ほつと十二日之久の既又とと
もくくく●大般若經より

便若進却別彼岸とて我邦とて般若
彼岸念舎行れし生死を彼岸は
を彼岸とて彼岸を別彼岸とて
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

そのまゝりゝかとりし新古七集、
いふに久しきよきし海邊の國の巻物
日没觀の巻物十一 二申の入日あり日先赫奕
より觀しや天日天の中を過り雲物
の長短相いりまじりて夫木葉、
りてまじりて相習ひて白き白きあすの
作は竹年の年とせり。

一日陰字

の茂の葉とて一日の
の各名を以て天の行の
葉とてよとせり

●神乐、舞鹿、少名衣、益、行、乙女
老明、真山、苔、恒板、神井燈、

夫日けし行いしやまのつとせりて板板も葉
のあはれいしはるる葉はてはかしの様也
是らうけりてよとせり
いふに久しきよきし海邊の國の巻物
日没觀の巻物十一 二申の入日あり日先赫奕
より觀しや天日天の中を過り雲物
の長短相いりまじりて夫木葉、
りてまじりて相習ひて白き白きあすの
作は竹年の年とせり。

一日新發

延長或は古事記の
天のりけしひし神代花

よの以羅為神代花とて板羅一名女羅是
これと別程なりとて板のまじりてよとせり
といふて書いさるてはて種の名ありこれ
とていさる其まこととてよとせりこの種ひりけ
のいさる

法名のりけしひし神代花とて、
●いさるのまじりては神代花の神代花あり
是しとては若しは神代花のまじりては神代花と
又り先をては若しは神代花のまじりては神代花
とていさる

●天照天神の神代花とては神代花の神代花
いさるのまじりては神代花の神代花とて
いさる

夫とては神代花の神代花とては神代花の神代花
いさるのまじりては神代花の神代花とて
いさる

神楽、○又只火をくくむ、石平、
兼、改、管、冬山里、以、長衣、南土、車、

儀
はさき、馬吉の焼火の造り、烟、扇、思、おき、音、
こい、十、月、車、ま、あ、ま、う、り、に、一、番、思、を、あ、う、と、し、車、
を、り、あ、し、と、し、う、り、う、り、子、大、な、た、る、と、の、り、う、り、を、
し、よ、あ、う、し、よ

一、火、の、地、考

夫、夏、の、地、考、を、あ、ら、わ、れ、る、今、も、考、え、し、よ、し、思、
一、火、の、地、考、を、あ、ら、わ、れ、る、今、も、考、え、し、よ

一、領、巾

日、事、紀、に、い、は、し、と、い、い、又、肩、巾、を、も、
よ、り、り、飛、び、の、物、を、し、つ、り、あ、り、
兵、兵、武、の、帛、を、よ、り、婦、人、に、よ、り、帛、の、版、を、○、
天、鈴、巾、を、う、り、と、あ、り、い、れ、い、婦、人、帛、を、し、妻、
を、俤、め、う、り、れ、い、人、の、死、4、天、ま、う、り、し、よ、あ、
天、と、俤、い、り、し、と、う、り、又、橋、領、巾、の、う、り、ま、く、
と、俤、り、若、し、し、よ、○、あ、れ、り、よ、り、一、原、よ、り、
肌、不、振、那、う、り、又、形、は、振、運、し、よ、り、石、平、

あ、ら、わ、れ、る、う、り、二、角、の、よ、り、合、○、日、事、紀、に、大、鈴、子、
い、れ、り、う、り、と、あ、り、一、原、に、依、用、い、れ、の、一、
定、外、固、ま、う、り、し、よ、り、領、巾、を、し、よ、り、し、よ、
裾、を、振、り、し、よ、り、あ、り、し、よ、り、領、巾、の、い、れ、
○、あ、り、し、よ、り、洗、い、い、れ、の、一、と、俤、り、あ、り、し、よ、
し、よ、り、一、種、の、衣、の、尾、の、か、り、を、し、よ、り、し、よ、
裏、難、要、に、沈、む、置、間、二、枚、と、是、○、一、角、の、い、れ、
い、れ、兵、武、に、依、用、し、よ、り、と、あ、り、し、よ、り、
○、日、事、紀、に、神、衣、を、し、よ、り、あ、り、○、花、よ、り、い、れ、
○、鈴、を、し、よ、り、多、角、一、大、鈴、を、し、よ、り、い、れ、
い、れ、地、考、の、あ、ら、わ、れ、り、し、よ、り、あ、り、し、よ、り、
と、い、い、り、又、鈴、の、う、り、い、れ、し、よ、り、
三、つ、り、し、よ、り、○、鈴、を、し、よ、り、い、れ、し、よ、り、
と、い、い、り、し、よ、り、あ、り、し、よ、り、鈴、の、い、れ、し、よ、り、
と、い、い、り、し、よ、り、あ、り、し、よ、り、鈴、の、い、れ、し、よ、り、
い、れ、吉、事、紀、に、陰、蛇、の、い、れ、人、よ、り、あ、り、し、よ、り、
と、い、い、り、あ、り、し、よ、り、振、り、の、あ、り、又、吉、事、紀、に、
振、り、比、礼、切、波、比、れ、り、と、い、い、り、元、衣、振、り、
る、よ、り、
天、由、事、紀、の、由、を、之、れ、を、し、よ、り、あ、り、し、よ、り、

ところのむらゝ平野のこゝろは也。●印の合
 とらふと中盤右集く申す中うらゝ印言
 女所集くところ●上巳の雛遊ひいとて賤物
 の多し原公思ひ少左近の時三月巳の日信陽
 師とのや後へも移ひてく人形と母子
 のせう原すうのあつたところ●二玩、来
 神奈の各所了とて●印の原もとて
 ●屏風、画、舞臺、推子人、小六所板、

一平野奈

平野の百姓の氏神より仁徳
 天皇を奉り又舒明天皇と
 袋双成り申●桓武天皇延暦中社造言彦和
 天皇天武天皇天智天皇天武天皇天智天皇
 奈の花山法光和元四月十日路又九月申
 日又十月申日と先打切てい反
 於 兼清律令とてさう申す平野の村に古巻あり
 中事少平の松の極大なりと云ふに云ふに 能立
 生れ手の有の巻持より記葉子と云ふに

一蛸

秋 蛸折 蛸拾ひても秋なり
 日暮時より少辰敷とも申
 ●才標とも申す

●秋初風、涼、晚、人後、村前、石山、
 宇治、軒外山、神南俊山、崎院、蓮、
 山多衣、夕鳥、非平、野中村、萩、
 山陰、山里、生三友山、極子、松虫、
 繁戸、清水、松下丸、軒苔、糺杜、
 色をもつてはる本伊の、橋、少兼山、冬立、
 大に山、園杯、秋生、伸、少又、

古と也と申す物々相の噂多れいと申すれつ
 いとんといひ別し相あり共相のさきと申す
 是れはつらつらと云ふに云ふに云ふに

▲陪秋影中一反而

一、其父子

漢書のりしよる懸望の各内
計つるもさう羨、兩程あり
小多と里羨とより人さまは大方と後
参、
●反し花同り

●三女は、水口は、入口、沼、夕立、吉、
夏月、他、庭蓮、舟、蛙、

他、
月、
夫、
子、
あま、

一、聖

日中絶、
とあり日徳とさす、
の稱、
心と我國、
る、
謂、

●わ、
●治世、
●学文、
酒、

万商、
古、

一、級

●の、
●長、

●洗、
七、

●朝、
●雲、
●眉、

小旗衣の此所の糸はよく入を被ると世に
夫をよといはれり。昔はさきより此の糸は
二事代神の御衣とて入はれり。此の糸は

- セタの玉子(玉子) 花のふいふと毎年の尾
- いれし。 ちんちん 法あるよし
- 衣の玉子の玉子 玉子の玉子 赤坂
- 玉子の玉子 玉子の玉子
- 八幡の玉子の玉子

一脈

神傳をくち脈をくち神キ禁神
燻肉玉子あり神代花の神難
せしむるよしあり。傳はれり。玉子の玉子
農祠をくちくち。是神社の遺跡なり。
万神の玉子の玉子。玉子の玉子。
●功州川、筑前物、築前、比良山、妙花、
赤坂といふもの物あり。玉子の玉子。玉子の玉子。
赤坂神の玉子の玉子。玉子の玉子。玉子の玉子。
赤坂神の玉子の玉子。玉子の玉子。玉子の玉子。
玉子の玉子の玉子。玉子の玉子。玉子の玉子。

○追加

一氷魚

軒をん字院の鱧をよし。和名所御
玉子の玉子。刻せり。玉子の玉子。玉子の玉子。
赤坂の玉子の玉子。玉子の玉子。玉子の玉子。
赤坂の玉子の玉子。玉子の玉子。玉子の玉子。
赤坂の玉子の玉子。玉子の玉子。玉子の玉子。
赤坂の玉子の玉子。玉子の玉子。玉子の玉子。
赤坂の玉子の玉子。玉子の玉子。玉子の玉子。

●谷上、止にあり、横河、筑前、大定、抱、
菜、今治、

一いさど虫

和名所、蜻蛉をよし。朝に生
てた。玉子の玉子。玉子の玉子。玉子の玉子。
玉子の玉子の玉子。玉子の玉子。玉子の玉子。
玉子の玉子の玉子。玉子の玉子。玉子の玉子。
玉子の玉子の玉子。玉子の玉子。玉子の玉子。
玉子の玉子の玉子。玉子の玉子。玉子の玉子。
玉子の玉子の玉子。玉子の玉子。玉子の玉子。

わをくあり 細流と好遊し 津波つたは倍肉
情極畢知 永住年とつる言成す 木村時陰
の玩もあやう

一 鷗

物狂風とくまう 鷗字の篇海より
鷗字のくまうひつりて
二合のきくともて弱きまやうのひつりて
さきへふまをりてふ小く頭上直にめりて
さきへふまをりてふ小く頭上直にめりて
さきへふまをりてふ小く頭上直にめりて
さきへふまをりてふ小く頭上直にめりて

一 鬚

わな抄、鬚とわつらひげ鬚
ととつひげとよめつ 鬚毛の女
ありとつら 全冊長制、三つ鬚とこひげと
沢とつ又鬚とつひげ鬚とつひげ鬚とつひげ鬚
ととつ
● 夷、田七人、然安人、吉三郎人、長旅、
左正、両老、老人、病、竜、変、

● 物及成、言あふまの史を極て盃人
とつすあつりて

一 二夜

旅伴、遊女、白髪、一夜白ひの
七女、竹、芦、あめの松
行の萩、中川翁、田王浦、友、莫、
北野、松、安徳、将使、

● 物及成、言あふまの史を極て盃人
とつすあつりて

● 物及成、言あふまの史を極て盃人
とつすあつりて

● 物及成、言あふまの史を極て盃人
とつすあつりて

● 物及成、言あふまの史を極て盃人
とつすあつりて

● 物及成、言あふまの史を極て盃人
とつすあつりて

● 物及成、言あふまの史を極て盃人
とつすあつりて

● 物及成、言あふまの史を極て盃人
とつすあつりて

いささかきうくはふんこよあつとこ或落一軟
あひて進路の一程馬もやうや好いて馬言と
こやけけうとさう病のさうさ死とこ二も落
此のこ師言の筆筆の目とことつち人のわかれ
とめれぬえうしあれい又あ夜の思いとる人の
連るもこのあつとさうしゆれい屋唐の國へ越よ
くらしあう

一 靴花

日本記ニ末髪於額をかど免う
靴花の形を収書たるや類上閑々花語杯
の形上折こけつゆさう又鷹ふちと雀こあれも
一寸或ハ五分を皆靴花ふたといひり
才多てあふふも相模長のいほこ花さけ美先
こ八九を巻をつけ右をゆさうはてつちと靴てこ
一人魄 明月記正治三年三月廿日夜前北靈具行
辺有人魄を走と之中
人たきのまは君らたさうあつと雨夜を不ぞるゆ

● 毛目録

蘆 蘆眉 蘆以 蘆信虫 蘆川舟
裳 裳衣 裳 脆 唐土 元結
ことあつ こともん 聖 餅 こち指
こちみの木 変 拍尼 拍越 拍怪
物の巻、おつこ 武士 拍思 母面
文字 桃 百年 百敷 百子う
賜

○ 追か
文殊菩薩 百代子

と申すも益々其以と云ふはとて其はたも
と申すやと云ふこと又と申す本もよあり
その本と申す一程あり●兼てと申す言は
とて●草花もあなり

と申すも烟もと云ふは月々人の筆は口より
其の筆は口より流るるの筆の筆は口より
口より流るる筆は口より流るる筆は口より

一 藤原巨虫

いれりしとていしとていしとて
いれりしとていしとていしとて

於人を行ねりし藤原巨虫の事とていしとて
いしとていしとていしとていしとて
兼ていしとていしとていしとて

一 藤原舟

あはれ舟とていし

いしとていしとていしとていしとて
夫も舟とていしとていしとていしとて

一 裳

古事記に腰裳とていしとていしとて
いしとていしとていしとていしとて
表は冬の中裾も短一切草削とていし
いしとていしとていしとていしとて
いしとていしとていしとていしとて
いしとていしとていしとていしとて

●雲上、舟船、几地、津、美、野人、

變揚、長尾髪、吾妹子、乙女子、

旅人、圓圓屋、妹、殺者、松浦川、

鮎河

昔もこの事傳はせしとていしとていしとて
いしとていしとていしとていしとて
夫古の事とていしとていしとていしとて
万松浦の事とていしとていしとていしとて

一 裳葱 女子の裳とて同形、男子の元少くし同。
 〇 秋、酒、知深、帳中、反、元、定か、
 屏風、 数々の書、 後の言、

一 喪 亡き人のものをいふ。早死、
 喪家としていひとよめり。詠
 問うより古くは母の母の母の時と
 もいふ。罪人の喪はもの、世方の罪人の
 救ふべく思ふし、獄令、毒し。〇 〇 〇 〇
 やいひ、こころお掃へるや。

〇 也、菴、少下山、定事父の喪に、
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 それに、くよし、程々の体々のものを
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

一 脆 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

一 唐土 日本紀に西土又唐と云ふに
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

多しやうて東也屋き草履さそとふろ流試の
 こすからうの園をさるかに

唐の五岳山良の角の日本吉の山岳後を
 山とされりし。又漢武帝の后馬頭夫人露

女よりし。日本御世の親世を訂りて五双
 の美人と云う所のし。また村后明の序近を
 して十種の宝物を奉り給ふ御具如言金剛

玉帳湯杖沓饒体虎皮は膝孔毛こと
 十程し。

唐正も知をり。白舞杖の舞をいせん

一元結

和名抄髮をいふと云はしり

髮法と云ふ 備式帳、紫の刺木本流、四葉と

たり 紅紙、甲のそとをう、西布法、紫糸也

ありしと云う 百、女人の髮髪申へる

本流と云ふ 梅、備式帳、揺い女子も紫

の元申を申へるや ● 備式帳と云ふのそ

禿氣は市との流色、紫散れりもつぬ、よ

とく、いと宮古ありす、いと内信よりいと爪

たり、いと下、いと、いと、いと、いと、いと

の行事、いと足とく、いと元、いと、いと、いと

申候のあ、いと、いと、いと、いと、いと、いと

元、いと、いと、いと、いと、いと、いと

君、いと、いと、いと、いと、いと、いと

夫、いと、いと、いと、いと、いと、いと

ひとこととあふ

花葉のあふくと、花葉は、
 をり、又、あふくと、花葉

向より、義、いと、いと、いと、いと、いと、いと

其の、いと、いと、いと、いと、いと、いと

字、いと、いと、いと、いと、いと、いと

脚、いと、いと、いと、いと、いと、いと

官、いと、いと、いと、いと、いと、いと

新、いと、いと、いと、いと、いと、いと

● 江戸の牛・馬・鶏の産物 (江戸の牛・馬・鶏の産物)

一 江戸の牛 (江戸の牛)

江戸の牛は、牛舎に飼われ、肉を食す。牛舎の牛は、牛舎に飼われ、肉を食す。

牛舎の牛は、牛舎に飼われ、肉を食す。牛舎の牛は、牛舎に飼われ、肉を食す。

一 聖 (聖)

● 聖の月、雨の日、とては、秋の名子、聖の月、雨の日、とては、秋の名子。

● 秋の名子、聖の月、雨の日、とては、秋の名子。秋の名子、聖の月、雨の日、とては、秋の名子。

一 餅 (餅)

● 餅は、餅屋で買われ、餅屋で買われ、餅屋で買われ。餅は、餅屋で買われ、餅屋で買われ。

● 餅屋で買われ、餅屋で買われ、餅屋で買われ。餅屋で買われ、餅屋で買われ、餅屋で買われ。

新花三百のし ●公筆板元二亥のの解と申
有上亥の目し ●為王の爲の所字三行方
條上子言大板こととて
後三行ののちなるらひしはひはの(母二橋)

一 ところの木 とところの木とらふ

三行 三行 三行
三行 三行 三行

一 ところす

そのの指せらふ度程のあり
促指とれくところす
夜そそののそそ 要解は史の那そそ
そそそののそそ

一 森林

ところとらふ 林最とらふ
多段す ●杜とらふ
ところとらふ 杜とらふ
るのしとらふ 下段す 神社とらふ

神名式の神社をさうよふ
りるりし ちの及ふし 又史記に畢在
鎬東有杜 注作廣曰杜一作社とて
杜と社し 同義用りやあふそよ
樹とて神作し といひしらふ
構へるやとらふ

- 鳥、象、香、鴨、鷺、杜、雉、雉
- 鯛、馬、竹、雪、雲、雷、外花
- 梅、花、葛、花、赤、柏、松、桑
- 羊、人、社、倉、香、神、神
- 因、野中、友、梅、神、外、龍
- 神、手、巨、連、板、山、水、下、涼
- 木、松、大、板、石、田、石、板、盤、手、生、田
- 鹿、竹、下、竹、羽、葉、花、虫、日、火、煮
- 若、丸、柏、木、尾、園、立、田、亂、月、鏡
- 浮、田、椎、葉、虫、香、大、葉、木、お、そ
- 垂、色、杜

凡そらふ 外高の杜を花葉とてはとらふ

おまじひめり正寄物車中はけり杜のついでに
せし 女けの枝の影もをたし物きひくく小敷のまじり
れ 衣ねまのあやもまのりきやあ、杜のついでに
流しあまのくつと粧て者まの杜をたれをせ誰を

● 妙高の杜 二番の二部、ふちの杜、杜のついでに
杜の下木、この下木、この下木、この下木
杜の木陰、杜のついでに、まじり林、まじり林

一物見 観物の女とあまの場、気場し
おん車中しとくくく又車、おん
とくくあり

● 神奈、車、舞、花、
若狭 推しの車中、杜のついでに、
あつた衣とくく改し、まじり林、まじり林

一物越 ともあまのり及居て、くくくあま
とくくあり

● 笑、陣、几帳、藩中、杜、花、他、皆、色、

原、子、雑、画、と、く、く、い、る、也、

一物怪 原、子、く、く、く、美、味、味、物、の
怪、据、ま、埋、物、怪、之、鬼、と、く、邪、悪、

● 笑、侍、魂、眼、針、行、名、く、反、
床、上、生、ま、出、舟、の、り、中、ぬ、杜、列、端、

少、の、夏、く、く、く、灯、出、く、く、く、
枯、柱、車、争、童、

● 泣、く、く、く、く、く、く、く、
く、く、く、く、く、く、く、

● 泣、く、く、く、く、く、く、く、
く、く、く、く、く、く、く、

● 泣、く、く、く、く、く、く、く、
く、く、く、く、く、く、く、

ふきかへしとておはせぬれりてしるる
とよふしむらたうしうりてのほりとも
ゆるれりてしるる

一物の音

こゝとぬいしうのひつるまると
しるるまゝの音(念ひまゝ)

●粉、犀、月中、花、宗、女鞠の紙、
酒、舞、実の割ろ、舟、神のふき

一物忌

神忌、神すまの孝謙池、ゆ延
三武、おつし九人を男一人を女一

人父久人ともいふ、を男一人を女一人
子良と神すまは、即子母のや敷女をいふ
といへん父し神すま、お忌を女保す、
船又の内無と信へていふをそしめ
又大物忌、内炊爰敷大師根倉山
向塩焼地奈尾系のお忌あり●麻呂の社も
女女と神すま●お陰、つ日おつことも
一神太白山のお忌ともいふ

葉秘抄、内物忌の指おつし、内他殿金平
流事、於其中、三つともいふ●梅屋、鳥
帽子お忌つとつと、申河海、昔の思ひ
みお忌ともいふ、お忌つとつと、
正事、多し、お忌つとつと、又おの枝、三つとも
お忌つとつと、お忌つとつと、お忌つとつと、
又お忌つとつと、お忌つとつと、お忌つとつと、
是の禁中、お忌つとつと、お忌つとつと、
お忌つとつと、お忌つとつと、お忌つとつと、
●知母の忌、お忌つとつと、お忌つとつと、
又お忌つとつと、お忌つとつと、お忌つとつと、
長雨、お忌つとつと、お忌つとつと、
●長雨、お忌つとつと、お忌つとつと、
神祭、佛祭、お忌つとつと、お忌つとつと、
野宮、お忌つとつと、お忌つとつと、
巨建のり、お忌つとつと、お忌つとつと、

一武士

このお忌つとつと、物部ともいふ
お忌つとつと、お忌つとつと、お忌つとつと

あまうし神武天皇征一治一付鏡連日命
 をそそ内物部を奉り再仕とせしは
 一より物部の但ともれりもては世に
 物部をとりつらうやとては
 の八十代にいつくは失とひけりて
 をつふしあはれの多き四事記よ
 物部の八十代の所作奉神の物と
 八十代迄つらうも物部を
 今もつらうも物部を
 合い多うつらうも物部を
 のをと祈りてつらうも物部を
 日わ物部のつらうも物部を

一物思

物思は物思を思ふ
 物思は物思を思ふ
 物思は物思を思ふ

物思は物思を思ふ

●宣祿、豊の禰子、愛光、右、尾、
 世、忠、康、茂、姫、杜、
 花、萩、支、
 花、萩、支、

一母屋

母屋は母屋を思ふ
 母屋は母屋を思ふ
 母屋は母屋を思ふ

●友衣、妻人、立備、
 几帳、妻人、兄、
 子、

●原公金梅と母屋の中
 情、
 情、

これの「」を「」にして母の「内」字より
通してある「」に入るとい。

一文字

「」より「」の字を「」並神又電
の「」より「」の字を「」の字を「」
・神代文の「」より「」の字を「」
内宮の「」の字及び内牧園社「」の字を「」
法を「」の字を「」の字を「」
― 神代文の「」の字を「」の字を「」
の字を「」の字を「」の字を「」
・岩野の「」の字を「」の字を「」
・巽、洞園、辰、石文、古塚、尾鹿、
桃壺

一百年

百年の「」の字を「」の字を「」
百年の「」の字を「」の字を「」
百年の「」の字を「」の字を「」

「」の字を「」の字を「」の字を「」

一白敷

「」の字を「」の字を「」の字を「」
敷の「」の字を「」の字を「」
・大宮の「」の字を「」の字を「」
大宮の「」の字を「」の字を「」
「」の字を「」の字を「」

・秋、琴、糸井、孟、董、櫻、輝人、
業、大宮人、吉島、馬井、山崎、
「」の字を「」の字を「」の字を「」
「」の字を「」の字を「」の字を「」

一白千鳥

「」の字を「」の字を「」の字を「」
「」の字を「」の字を「」の字を「」
「」の字を「」の字を「」の字を「」
「」の字を「」の字を「」の字を「」

●古くより信濃の國の鷹のあそびはなれしは
あまの代もなほいふあそびにちかひ

百千の鳥のあそびはなれしはなほあそび

こゝに信濃の國とていふに、信濃の國といふ

●信濃の國もあそびを能くあそぶ

●又之に似ては信濃の百千の鳥のあそびはなれしは

これに又まじりてあそびをなれしは信濃の百千の鳥のあそび

なれしはあそびはなれしはあそびはなれしは

信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

●夫木十七冬の都のあそびはなれしは

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

●百千の鳥のあそびはなれしはあそびはなれしは

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

のあそびはなれしはあそびはなれしは
信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは
●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

一 鷗

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは
百千の鳥のあそびはなれしはあそびはなれしは

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

●信濃の國のあそびはなれしはあそびはなれしは

○園豆 時方 箭 勇 吉烟 然地 萩
恆根 蟹 櫃 八つ子 狭 恒 櫛
夕日 彦 山半 尾 尾 峰 紅 凡 荷 櫻
野中社

此
夫
と
事

○追心

一 文殊菩薩

迦毘羅衛

於
提
文殊師利言我於海中央宣說妙法蓮華經

一 百代草

萬の良文 下 編 又

此
有
所

○世目録

瀬 魚門 并 脊子 示 裁 閑 障
浪

須

湖、椽、榎、詠、訪、皇、す、か、り、
す、か、り、禰、野、相、撲、白、蕪、芋、菅、
正、仰、板、妻、杖、折、行、好、心、妻、
聖、降、炭、炭、又、董、栢、未、摘、花、
李、す、か、り、す、か、り、す、か、り、
治、忠、涼、落、す、か、り、の、為、在、硯、
鏡、す、か、り、衣

附、雙、六、姿、す、か、り、
す、か、り、す、か、り、す、か、り、す、か、り、

世、部

一、頼

世、と、よ、ま、る、元、文、水、流、砂、生、也、
ト、カ、背、の、向、の、向、を、か、る、れ、の、因、
一、く、よ、ま、る、也、
古、事、此、昔、人、の、言、者、此、と、
之、を、も、と、ま、る、水、流、く、舟、を、か、る、れ、の、喩、也、

神、代、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、
此、代、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、
一、代、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、
澹、因、と、よ、ま、る、也、
● 離、と、よ、ま、る、也、
● 足、字、流、と、よ、ま、る、也、
古、事、此、昔、人、の、言、者、此、と、
之、を、も、と、ま、る、水、流、く、舟、を、か、る、れ、の、喩、也、

● 鹿、川、柵、木、翼、岩、萍、塔、代、桂、
子、香、舟、舟、橋、梁、凡、京、粉、何、丹、
● 鮎、井、花、早、川、以、玉、厩、山、川、
氷、苗、代、水、火、車

天、下、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、
古、事、此、昔、人、の、言、者、此、と、
之、を、も、と、ま、る、水、流、く、舟、を、か、る、れ、の、喩、也、
山、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、

一 道門 下原とせしよあり 端川とせし
幸に 奥戸とせし 奥戸

● 陶物とせし物とせし 尾張とせし 尾張とせし
中とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
類の及元入宋の所同くありや 尾張とせし
とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし

● 入海 言岩 以令 大女 牛急 湊
明石 生風 湊路 千とる 友舟 入江
片帆 松明 志都 府 同 皮

入海とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし

尾張の尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし

一 芥

● 芥とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし

● 曹百、米原、月とせし 川辺、沢辺
あり 中川、中地、八旗川、
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし
尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし 尾張とせし

一、脊子

兄子しきり 昔見よもの忍るるを
 多し夫をさへし之を親しより
 不測なれ衣通履の天衣も捨れよとせ
 扇、親友の友の方用とせよとせよ
 子、對ししとせころる古事紀見よとせ
 りはしむとせとせとせとせとせとせ
 名に古とせとせとせとせとせとせ
 よとせとせとせとせとせとせ
 ● 昔記、せとせとせとせとせとせ
 ● せれしより同

● 狩場、扇、梅、萩、蜘蛛、折れ、燦、松、香、山吹、旅、菜、鶏

● 吉原、河原、舟、橋、舟、橋、舟、橋
 ● 舟、橋、舟、橋、舟、橋、舟、橋
 ● 舟、橋、舟、橋、舟、橋、舟、橋

一、刺殺

● 居如、与、桂、木、与、庭、砌、表
 ● 菊の詞、木、花、い、せ、お、さ、う、も
 ● 由、前、裁、と、い、庭、木、の、枝、木、を、不、良、圖、對、方
 ● ぬ、し、● せ、お、も、あ、ら、せ、男、之、業、い、由、前、裁、合、の
 ● 為、為、し、● つ、は、お、さん、と、つ、け、と、り

● 巻、木、● 巻、中、● 泣、中、行、● 忍、長、宿、月、夜、● 官、中、● 古、名、歌

一、間

● 和、名、抄、せ、き、ご、い、よ、り、間、門、の
 ● あり、と、な、い、ま、か、ま、せ、地、と、よ
 ● め、り、人、や、防、ぬ、り、の、多、列、江、邊、は、多、敷、物、い、ち
 ● ● 日、事、記、略、相、殺、刺、と、せ、る、史、記、を、蜀、刺、逆
 ● 正、字、通、刺、者、俗、作、様、と、ら、ふ、是、く、● 比、男、と、い、
 ● 呼、如、い、ち、せ、治、庭、庭、那、庭、庭、山、の、東、園、城、に、事、度、園
 ● ち、あり、の、係、親、房、の、保、ち、丸、丸、● 粟、戸、い、武、蔵、野
 ● 小山、甲、の、丸、此、し、● 徳、圓、園、を、と、り、こ、い、ち、と、い、ち、
 ● 相、殺、と、さ、す、や、い、ち、● 男、如、い、ち、あ、ら、し、と、い、ち、
 ● 四、の、宮、と、い、ち、採、在、と、い、ち、世、孫、人、と、い、ち、行、な、り、と、い、ち、
 ● 才、四、の、宮、と、い、ち、と、長、卿、と、車、江、り、と、い、ち、と、い、ち、と、
 ● ち、い、ち、● 粟、清、水、と、い、ち、と、い、ち、と、い、ち、と、い、ち、

●松、楓、花、梅、桜、落葉、岩、清、水、
馬、釣、猿、鹿、疾、鳥、号、鳥、
旅人、喜、返、松、忍、佛、他、自、杜、
藤、

此の字をたてて、
建仁寺の
久松の寺に
とて天をたて

大に北のふりまて、
己上人の胸中の一画なり

此の字は、
世の中、
舟の舟、
唐の唐、
再、
在、
世、
放、
と、
一、
画、
なり

此の字は、
世の中、
舟の舟、
唐の唐、
再、
在、
世、
放、
と、
一、
画、
なり

此の字は、
世の中、
舟の舟、
唐の唐、
再、
在、
世、
放、
と、
一、
画、
なり

此の字は、
世の中、
舟の舟、
唐の唐、
再、
在、
世、
放、
と、
一、
画、
なり

此の字は、
世の中、
舟の舟、
唐の唐、
再、
在、
世、
放、
と、
一、
画、
なり

此の字は、
世の中、
舟の舟、
唐の唐、
再、
在、
世、
放、
と、
一、
画、
なり

此の字は、
世の中、
舟の舟、
唐の唐、
再、
在、
世、
放、
と、
一、
画、
なり

此の字は、
世の中、
舟の舟、
唐の唐、
再、
在、
世、
放、
と、
一、
画、
なり

此の字は、
世の中、
舟の舟、
唐の唐、
再、
在、
世、
放、
と、
一、
画、
なり

此の字は、
世の中、
舟の舟、
唐の唐、
再、
在、
世、
放、
と、
一、
画、
なり

此の字は、
世の中、
舟の舟、
唐の唐、
再、
在、
世、
放、
と、
一、
画、
なり

此の字は、
世の中、
舟の舟、
唐の唐、
再、
在、
世、
放、
と、
一、
画、
なり

此の字は、
世の中、
舟の舟、
唐の唐、
再、
在、
世、
放、
と、
一、
画、
なり

●大いものうの茅櫓ははだかといひてふ
天師を三指事にして一ものほ木園の村あり

一諏訪

信列古事記河内郡とて由七引
伝徳の郡の名とす社式南方刀義神社三石
とし由七社建所各方余下社八段刀義
とし由七方の系三月酉日麻政と七十廻
の七神宗信列肉と料一或し信下下の
海方と麻を供へ八上ひ年中七十九委系を
と下とし七年一夏大系を四月申に馬り
交くら用由をせ井と極とよよて酒方の系難
なり又七月廿七沖事後を例あり木村
山系なりとし山系極をといひてし物
●すの海湖とて下の酒方あり上の酒方三
里隔てて周圍五十七里一歩とて米のとを
面のちといひ米の極をといひて米とめれ
い年より一尺三寸、乃山も初才四五日
海とてあり米のと、大なる大木大石を
海とてし又神先とて山の極をといひて
あまれり米海とてする時、肉後りるてし道

●神中抄にすの神の一宮とて
神の目とて海の上の面はつらつらとて
つらつらとて米とて旅人も歩居りしつらつらとて
日の快神候つらつらとて米のまゝとて
米とてとて人馬とては米とてのや、米とて
つらつらとてとてのつらつらとてとて
聖なるを設くとて、東海、国酒の社
湖大崎並鹿鹿木に沈居時の万如海而失を
●二宮は列山とて、鵜飼ありとて後、酒方
とて、播磨とて、●帆の極とて文選より
帆氷とて、朱子語類に帆世安疑、海候に
須氷尽、合候、兼、安、氷、下、有、水、産、疑、山、社、候
恐、氷、海、候

●神、舟、波、池、夜、花、月、晴、麻、衣、駒

●神、舟、波、池、夜、花、月、晴、麻、衣、駒
舟、波、池、夜、花、月、晴、麻、衣、駒
舟、波、池、夜、花、月、晴、麻、衣、駒
舟、波、池、夜、花、月、晴、麻、衣、駒

一 天皇

天下の統御の多き
あまの御子と
あつて大一統の多き
あまの御子と
あつて大一統の多き
あまの御子と
あつて大一統の多き
あまの御子と

あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と

あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と

あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と

一 すがる

あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と

あまの御子と

あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と

あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と

一 すの馬

あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と

一 簾

あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と

あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と

あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と

あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と
あまの御子と

① ずまの人といふは、信長よりいへば、固奥、
 槍、齊力人、すまのひく、よあつ、すま、よまの
 海、といふ言、通、② 和名抄、相撲、北、占、手
 里、髪、尾、角、最、手、助、手、の、名、列、あり、又、此
 合、相、撲、の、名、あり、と、い、ふ、相、撲、の、名、の、頭、取
 年、多、し、と、合、行、自、し、内、池、式、子、占、手、助
 則、差、れ、声、不、差、舞、寂、手、助、則、差、れ、声
 及、舞、とい、和、名、抄、胡、麻、岳、を、亭、子、佐
 系、相、撲、の、所、し、備、ち、右、房、所、作、こ、と、い、ふ、
 是、相、撲、の、三、代、美、濃、の、其、和、の、所、在、也、
 ③ 内、取、召、合、振、と、い、ふ、名、曰、あり、此、を、召、合
 合、り、と、振、手、と、い、ふ、内、取、の、地、也、と、い、ふ、

● 書、在、第、七、年、南、麻、源、速、吉、野、元、右、衛、門、也、
 召、つ、れ、相、撲、を、振、ら、ん、以、是、始、也、
 ● ころ、書、と、い、ふ、万、巻、に、相、撲、部、領、使、は、八、部
 領、侯、と、い、ふ、日、事、紀、茶、菰、の、名、も、部、領、を
 上、と、い、ふ、河、せ、う、下、を、振、の、名、も、十、唐、也、
 ころ、と、い、ふ、お、く、の、の、上、と、い、ふ、と、あ、も、備、前、の、部
 領、有、り、相、撲、の、最、と、い、ふ、合、と、い、ふ、
 七、月、十、五、日、の、万、巻、部、を、奉、つ、て、固、く、使、を、
 下、り、し、相、撲、を、召、上、と、い、ふ、つ、つ、と、い、ふ、左、右、方、
 多、ら、し、書、を、こ、ころ、つ、つ、の、し、と、い、ふ、

● 百敷、 醍醐、 西井庭、 甘花、 夕暮、
 食、也、

中、地、の、名、も、ぬ、あ、り、は、の、思、は、し、し、の、
 此、の、相、撲、の、之、う、あ、り、の、所、也、
 名、も、こ、ころ、と、い、ふ、と、い、ふ、

一、白、草
 天、門、冬、こ、と、い、ふ、は、よ、い、ゆ、
 此、の、相、撲、の、之、う、あ、り、の、所、也、
 夫、れ、と、い、ふ、毛、茸、梅、の、す、も、
 名、も、こ、ころ、と、い、ふ、と、い、ふ、

一、須、大、所、後、 三月一日、

此、の、日、振、一、日、の、所、也、
 一、信、陽、師、
 一、信、陽、師、
 一、信、陽、師、
 一、信、陽、師、

そのうち、
ついでに、
あつた。

八重の神、
との、
あつた。

春海、
あつた。

一菅
あつた。

池、
あつた。

あつた。

小坂の苗 まひけ尾く、大坂のゆかり
 小坂の笠 菱のあしき 小坂のまてり
 まてりの中坂、雞波菱笠 弓つりまけり
 弓つりの中坂、山崎、三つ葉の笠、其の深遠
 水之れの中坂、はなの中坂、中坂の中坂
 入たし高き白坂、入江子高き中坂下

一冷

すまみーといひ着涼をいふ事、及
 ここれいすまーといふ事、又まーい
 嶽の字、知しとて、長明の事

大和のあまのすまのこころいへる事、
 嶽の人のすまのこころいへる事、
 の星のるくさくさ、さう、管口地、松衣、松衣、
 妻もよあ

●松衣、松の光、あひ、君を尾く、
 月の表、松中、時雨、上折の事、
 本物の事、旅の事、板屋、陵、伯母

一秋

秋の字、松、松、松、松、松、
 とあ、秋、秋、秋、秋、秋、

秋、秋、秋、秋、秋、秋、秋、秋、
 け、け、け、け、け、け、け、け、
 石、石、石、石、石、石、石、石、
 こと、こと、こと、こと、こと、こと、
 神、神、神、神、神、神、神、神、
 刻、刻、刻、刻、刻、刻、刻、刻、

●神、神、白、白、谷、山、峯、官、官、社、
 寺、初、初、三、三、山、山、雨、雨、花、花、鳥、
 風、風、香、香、旗、旗、こ、こ、の、の、山、山、く、く、ま、ま、
 時、時、雨、雨、花、花、い、い、る、る、山、山、菫、菫、山、山、田、田、
 石、石、山、山、庭、庭、門、門、布、布、宙、宙、三、三、痛、痛、山、山、木、木、
 古、古、川、川、二、二、三、三、山、山、苔、苔、竹、竹、雪、雪、横、横、川、川、洞、洞、
 急、急、巨、巨、蓮、蓮、相、相、反、反、重、重、鳥、鳥、動、動、栗、栗、柄、柄、小、小、の、の、
 萩、萩、杜、杜、若、若、只、只、月、月、雨、雨、

秋、秋、秋、秋、秋、秋、秋、秋、
 秋、秋、秋、秋、秋、秋、秋、秋、
 秋、秋、秋、秋、秋、秋、秋、秋、

山はあめあめかきつたはたけりて
●あめあめく 山はあめあめかきつたはたけりて
のよめあめあめかきつたはたけりて
のよめあめあめかきつたはたけりて

一山炭

●山炭 泉州櫻山より精の炭炭あせり
●山炭 泉州櫻山より精の炭炭あせり
●山炭 泉州櫻山より精の炭炭あせり

一炭

●炭 写傳、布、門、車、
●炭 写傳、布、門、車、
●炭 写傳、布、門、車、

一炭電

●山 嶺、禁、生、松、風、模、松、小野
●山 嶺、禁、生、松、風、模、松、小野
●山 嶺、禁、生、松、風、模、松、小野

山はあめあめかきつたはたけりて
●山はあめあめかきつたはたけりて
●山はあめあめかきつたはたけりて

炭木

北山 大原山の存量之多き炭木は下や海へ 信実

炭小車

一年此の炭小車を都下出る炭の小車 肖柏

炭焼翁

雪降る上を知らぬ山は炭焼翁を如く 雪朝

炭賣

都、九重内、重き侍 又車に炭の合

雪と並つてありしは東海門の外好炭の車に

横山炭 泉列横山庄又鬼材より出茶道家

皆之文河内香滝炭此山東北より皆躰踏山炭ナリ

神六 何れに下は炭原の横山炭の白くはん 光後

夫 炭 朗詠 近日那離歌炭辺

夫 炭 朗詠 近日那離歌炭辺

十首 煤 椽木の煤の八未出

焼すつて柴の後も山里のすけや炭好く為す

白氏文集賣炭翁新伐薪燒炭南山中滿面塵

灰烟火色兩鬢蒼々十指黑賣炭得錢何所

管身上衣裳口中食可憐身上衣正身心憂

炭賣賤願天寒夜來城外一尺雪燒駕炭車

輒水轍車困人餓日已高市南門外泥中歇

兩騎來是誰黃衣使者白衫兒手把文書

口稱勅使車叱牛牽向北一車炭重千余斤

官使驅將惜不得半疋紅絹一丈綾繫向牛頭

炭直

一草一木

莫測抄

一夜草、二夜草、一葉草、二葉草

雉子、荒田、霞、野、古跡、妹垣根

雲雀、露、蝶、伏見、布田野、野の仮称

而、差生、浅茅、岩田野、箱根山、櫻

大原野、北野、古垣根、茅花、色薄紫

月、濃紫、花紫、ゆき池、小野の差生

石田、丹國、奈良、三熊野、布田野

紫野、藤火野、武藏野、春日、朝原

山吹、花、藤、乙女、九重、蓬生

露拂し袖、荒る宿

秋錦池亭、荷葉後、野人籬落、莖花砌

武蔵の根屋ノ横野の土生草ま神ノ橘色である
 春の色は草野のついで草花のついでに誰か
 浅茅生や荒る宿は草誰れ葉の色も深ん
 肯や妹垣根の宿は茅花の草の
 箱根山傳草は草二入三入誰れを草ん
 草杉旅旅と一つに北と橘伏先の野一草
 雄子啼出石田の小野の土生草はす草
 今宵時了橘了帰る草野小野の土生草
 草橘野也の度宿れ衣と薄三月も
 草橘花淨衣露室にわつてうの月野の
 老ぬ花の都より後て山す草
 草生野代の宮宿は橘の宿る春
 野代官上伊勢衆名より齊官群行の時
 行官ナリ云々
 此のむす玉のついでにまて桔草の候は盛忠
 右のと尋いれ庭にまて草生ナリ 頼政

一 栖

只一の住ま家馬ナリ屏拔廿句内スヘシ
 昔家万葉之版とよ免了住許は
 此の御いけり同いついすか終上住
 ころ

一 末摘花

荒る宿・琴・三輪・初瀬・蓬生
 人立す思えく紅の末摘花の色も
 の色濃花をかくる人あま移つて
 諸君に大内山と出かすつてまぬ十六夜有

一 李子

片山落
 花乃常にあるや 雲御抄
 孝園のすは花庭を散くうのぼり残る家持
 滴がの宿とら山賊の垣ほの本花咲けり為家
 山賊の衣干し垣根を白くし本花咲 知家
 おかぬ山かの青本まあかぬ信貫
 梅くらまきまうし垣内本の花を常がらん 光俊

誰もよき下の通をさしつゝしつはたふれ 権信正
瓜田不納後亦た井井に討 公朝

一す

・野の庵・仔麻・霜・時雨・より野
今宵ぬす吹風と身又吉野の 蔵 峯月と

一すはりの

・小竹の類とすといひ清きまゝや吉野の
嶽より分て大嶽の内す吹ほめりもその
下流もよなる神代紀五百箇野薦といひ
井物多るなりといひ式説薦ハ薦の類り
薦と進き小竹ありと也
・鈴竹の筒とすといひハ風雅集より
たゞ物細と事しりて是ははさる竹の竹
まといとて記して之を今著同集より石泉
法印鞍馬の別當より彼よりすと云々

ほうけ多ると武人の行(ま)とて
おすハ鞍馬の福とすなり

・筒は皮といふと惚物と云ていひしりてを
そまの福といひなり今白き法貴(り)とて
煉と云てよなるや正月とてまの寺より富
札とて献るふあり

一鈴

・鈴とて音の清きより名なるなり
神名祕書にも鈴を音字なりと云なり

・神前ノ鈴ハ周禮ニ大祭祀鳴鈴以應鶏人ト
ミ多リ後漢ニ韓傳ニ走大木以懸鈴鼓又
鬼神其南近接トミ異苑ニ廟處鈴下ノ
巫人トミタリ

・神樂の鈴々十二顆と撰鈴族セリ神々を
一々々の意なり新撰方帖子
公女振上鈴のころと

・徒然草ニ内侍所の之鈴のまがめてたぐ
優りたるのめりと徳大寺大改大后を伴
らひり

鈴の川が禁掖秘抄に校書殿に後子繩と
張りて鈴と着て小鈴の個を以て藏人
小舎人と名付る事といひり字典に
唐の制學士院深嚴懸鈴索脩警トシテ

花ノ鈴
花上金鈴 搖曳金鈴 日幾回不教紅紫委
蒼苔誰知鳥鵲驚飛去別有金堂花野鹿來

蕭永崖

鈴護寧王丹花用時綴金鈴於花下以驚
禽謂之花年鈴

鳥を以て鈴を以てしるのす

安康記 脚帶小鈴ナリ

宮人のあゆみの小鈴を以て宮人とも云へり
行幸於鈴 山家 額故院の御時之ゆきの鈴ナリ

奏也聞て

鷹鈴 白澤ノ鈴 延喜式ニナリ

勅あり行幸やちりて野の鷹は鷹毛の白澤の陰庭家

鷹ノ鈴近代園別船ヲ名匠トス云々
陰ま鷹の詞有り鈴の口は木と云へり

下には其の鳴り馬を驚かしよる為なり

繩ノ鈴財ヲ知しむる夏顯宗記老女おき先

老て行歩不便より繩と張りて妻子
かりて參る其端は鈴とかけ物申入る

帝其鈴の三日と聞食て御款あり

鈴舟 舟に鈴とかけし夏水ノ際氏頂テハ

趣あり時鳥羽舟に召れる其の
舟の盈りし鈴やそれより熱くはる夫

のささるる舟よハ鈴とかけしなり

鈴鹿 伊勢度會郡ナリ 鈴鹿山伊勢

鎮坐此社在阪下昔大比古命倭姫命於是

逢此神問曰國名味酒鈴鹿國奈具波

志忍山ト云々 鈴鹿川東在麓阪下此河自

北流至關盤旋一河涉數回故祢八十瀬云々

一日天武帝大友皇子ニオソハレ吉野リ鹿誅

ヲ經テ此所ニ至リ給フ時山中灯火ニヘケルカ忽
一人翁頭レ吾ハ此山神大山祇ナリト案内ニ

漆奉ル川水増り渡兼給フ鹿來リテオ奉リ
 渡シ奉ル此麻驛路ノ鈴ヲ附タレハ鈴鹿ト名付計
 鈴鹿橋此橋板栝桐ヲ以テ和琴ヲ造ル鈴
 鹿ト名附テテ代々帝ノ宝物名番ナリ
 鈴鹿關拾苒抄ノ相及不破鈴鹿日本ノ
 三關ナリ云々桓武帝ノ御時始テ五ノ後醍醐
 御時關停止云々一驛今ハ改ノ下宿是ナリ

山川關山田原 神路山 河野松原
 滝八瀬花 栝薄 桐古琴 鶴 鷹
 鈴虫 驛 時雨 雪 五月雨 落葉 飯雁
 萩 月 鐘

齋王群行ノ時當所ニ頼宮アリ
 牡鹿ト云リト云リ鈴鹿ト云リの似る物ナリ
 秋山の響ニ安カキモノも響カシクも哀けす如鳴ト云リ

一 鈴虫

侍従の唐名なり

野 旭 荒 露 秋冷 月 小鷹狩
 災野 不祥矣 袖振山 鳴海野 秋也 七夕
 神樂岡 粟津野 奈良良 小倉山 鳥辺山
 以狩 女郎也 故曰 時雨 寄ひ分にはし声
 鈴鹿山 薄 小田原 川 岸 雁 五日好山
 白川 上長岡 余去月

鈴鹿の陽と云リ長夜ありて候れ
 秋深き夜に鈴鹿の音を下啼弱りて鈴鹿声
 哀けし人のさぬ冷也
 秋の夜に鈴鹿の音を下啼弱りて鈴鹿声
 哀けし人のさぬ冷也
 萩の枝の下に石と鈴鹿の音を下啼弱りて鈴鹿声
 哀けし人のさぬ冷也
 粟津の山に鈴鹿の音を下啼弱りて鈴鹿声
 哀けし人のさぬ冷也
 鳥辺の山に鈴鹿の音を下啼弱りて鈴鹿声
 哀けし人のさぬ冷也

一 涼

清凉冷と云リ分ていへ清物とす
 すこし一禮ト冬ハ温而夏ハ清スと云フ

涼ハ輕生と云リ秋一片の清風と云フ
 冷ハ清ナク氷也と云リ
 納涼ハ避暑ト云リ
 納涼ハ避暑ト云リ

すゝもろもろよふ日本記三遊暑と訓せり今涼
六月七日海邊の風俗二夜の送物一涼床八邊
生ハ暖涼榻ハ天寶遺事ニ云フ

加茂川の水底すゝ思月を行く夏夜す
袖の夕肌 菅 白扇 甘雨 露 几 月 本 蔭
あけぬり 柗陰 湯治 森下道 舟除 橋上

仁の戴 朝夕 初社山 旧山 山 山 山 山
杉尾 休小伴 半橋 釣尾 後尾 福美

山井林 帷 暮 露 露 道 河 河 河 河 河 河
明窓 露 氷室 山水 虹 秋 夜 虫

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露
あつた 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露 露

一雀

日本紀業神奈

繩組四方逐食粟雀

古今注雀一名嘉賓月令季秋入大水為蛤

黃口雀小也勸學院雀嚙梁永陳留老留傳云

高帝時魏尚雀鳴復故官雀爵命之祥也 北史雀

古其貴

竹 稻葉 田軒 苗代 社 古宮 園

小鷹狩 石野隈 小家の廻り 雪 小田村

草垣 霜 鳥存田 葉屋の軒 賤門田刈田

園

群る田中は庵のむく雀つら門板まき鳴り

吸子皮田面のほし騰きてるむく雀つら家長

軒まきすく雀巡るまの友まきまき雀道遠

知家 雀の雛乃手列つまきまき雀さる人

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

雀の雛乃手列つまきまき雀さる人 知家

一鰻

雜ナリ 鰻鉤ハ秋ナリ

藤江の浦 干海浦 吹井浦

鰻次專方熟魚肥美正紅

聞説故園香稻熟片帆帰来紅鱈魚

疾きら暴風雨雷震一声簾卷化為胡蝶
羶膾晋書張翰吳人因秋風起思吳中菰菜
羹美矣新膾霜霰官數千里以要名爵于遂命駕
而返云

あはらの藤わの浦よ釣鉤番とて人旅行春を
秋のよけ井の浦よ舟出で月も葎の釣鉤人
釣鉤竿たてみのごよこはの住よせり社信家
秋は釣竿の勝也いして行く人の代をすき後頼
秋は釣竿の舟走りつうのこも此後成りて西り
釣竿釣竿は船をいよ朝の波は信も用し降伴正
釣竿は秋の釣竿は誰少斗よと淨は奴知家
釣竿釣竿は秋の漁火の石たも妹逢き人聖武帝

一薄

野 鹿 虫 鶉 露 田 庭 邑 石 跡
垣 萩 麓 山 田 畔 小 鷹 狩 古 塚 岩
荒 跡 小 倉 野 也 霜 入 野 也 好 室
外面 刈 田 跡 武 藏 野 真 野

花薄

小倉 清光開 生野 三月 七ノ小亭
林野也 王社

草花き野井杜のつまつろ花薄はあす神
あす秋のさき花薄はあすこころはあす
秋の虫師の住る花薄はあす秋の虫師
今より花薄はあす花薄はあす秋の虫師
火君山花薄はあす花薄はあす秋の虫師
行人と花薄はあす花薄はあす秋の虫師

糸薄 野鳥はあすこころはあす
あすのほろい糸薄はあす秋の虫師
糸薄はあす秋の虫師はあす秋の虫師

ハ夕薄 万一 幡負為寸同十皮為酢寸
神功記神詔曰 幡萩穂出吾也云々

吾妹子に逢坂山のを薄はあす秋の虫師
あすの糸薄はあす秋の虫師

霜達山田の畔はあす薄川人介に残るれ
祭糸薄 一ハ大方穂はあす秋の虫師

あすの糸薄はあす秋の虫師
あすの糸薄はあす秋の虫師

後 蕨の物也よと云ふ所は秋の菊とけり
御正所の山々の葉は出ぬ葉はかり
秋の吹雪の葉は出ぬ葉はかり
年経て葉は出ぬ葉はかり

○ 山 鹿の入野の蕨の花にや加味はまじり
○ けの蕨 保憲女果

○ 十才襖蕨 けの蕨にまじり
○ ますの蕨 けの蕨にまじり
○ ますの蕨 けの蕨にまじり
○ 後 然草も十才襖の蕨の事なり

○ マスホノス、キ 長明伊セ記
○ マスウノ蕨
○ 秋のす霜後の蕨地と茶ます
○ マソヲノ蕨
○ 白妙の葉をの糸とてはば色もすすむの同

○ 初穂の蕨

夫 けの蕨は初穂のすきまにけり
○ 蕨徳波

○ 裾濃蕨
○ 花すき裾濃の糸とてはば色もすすむの同

○ キリフノ蕨
○ 狩人のえぬ野原の著たのきぬの蕨誰れん為廣

○ 本アラノ蕨
○ 旅人の身又野への襦は本わりの蕨

○ 子蕨
○ 夏はすきまにけり茶葉の下にまじり

○ 山 岩蕨
○ 吉野川 本まじり岩蕨釣す人の袖と示る

○ 神 衣蕨の川也まじり岩蕨釣す人の袖と示る元長

○ 一 村蕨
○ 家への村すきまにけり君の手馴の駒もぬれ

○ 寸 黒の蕨
○ 小笠原すきまにけり下草にまじり

○ 小 笠原すきまにけり下草にまじり

後院
 栗津の寸書の薄角組をみるにやむを得ず
 ○柱の草紙は是よりすきと入忠と人のやうとより
 秋の世の別を(ある)ききと薄くききあり
 ぼきのすうにいとこき朝露にぬけて
 磨きするや斗れものある秋の景色くに
 引き戻りし花ももつ後冬来まてからいと
 おりせぬるさうさうとひい出たりるま
 たる人よこいさういさういさう

一硯 倭名鈔をみすとよりあり墨研の
 義より朝野群載大政官外記の條
 召物の書式より辨官下尾張國應早速進上
 猿頭硯敷より

○みるいー 河海抄云硯は文珠の眼より故に
 眼石といふ并ありとあり見石と書ゆ
 以石のおもつ物かき山此より

○烏柏 後嵯峨院年中行夏抄云
 七夕烏柏納筆七本云々
 ○朗詠 殊網鎖硯 嶋畫硯

○土佐石・石王子
 石右石の櫻濱沖より文字開石或は嶋硯といふ
 三月三朝盡取と云奥羽どちの海中より
 同日よるとより石王子は丹波石王子山也
 ○かみり硯 禁秘御抄云三つ古瓦あり
 ○松蔭硯 平重盛公黄金と宋朝一賜侍得れ
 一つは室衛の

○後西院帝御愛物宮川石硯
 水府西山君と賜りし同君の銘圓足硯
 号と云御製衣あり
 つつゆ硯の石は硯といひて感え言は
 水産の硯といふ石硯ありき
 思ふより硯の水とほいさうや

○嵯峨石
 人いふと世のほ石の事と墨ととより
 也
 草根
 雪
 墨

女寮も言に心かきまゝいと昔の跡をけり
和歌補多の人の世の海舟はしほも藤のたけ
の碗の上の空しく——とよけの山一を不付といり
偏の名をといひ逢にぬ碗の上は花を吹か
件正

一水筒 すけすけおせ
和名 須美敷利加米

一すかけ衣

一雙六

六表丹きらいた茶類扱附レハ
一^{万十}二の目のとよあはし六三四一あり多^六の賽
一^六きまふあはしとまはる^六のこといの牛^六の^六

双六のちてはる人書はありては物よあぬ
十^五の五の石のむふく双六のすき^六の^六雅
催樂大^六并^六款

ゆの木の^六も^六む^六う^六の^六さ^六う^六さ^六の^六か^六の^六き^六

一^六二^六の^六目^六の^六と^六よ^六あ^六は^六し^六六^六三^六四^六一^六あり^六多^六の^六賽^六
一^六き^六ま^六ふ^六あ^六は^六し^六と^六ま^六は^六る^六六^六の^六こ^六と^六い^六の^六牛^六の^六

一^六次^六女 一^六万^六葉^六光^六儀^六等^六み^六為^六形^六と^六書^六り^六訓^六も
知^六ぬ^六一^六日本^六紀^六容^六儀^六威^六儀^六と^六訓^六と^六り

常に姿とよきり海人^六蔭^六林^六よ^六舞^六装束^六の^六
時^六の^六髪^六と^六ひ^六ん^六は^六ら^六り^六一^六流^六り^六も^六を^六け^六ひ^六り
上^六よ^六ハ^六す^六と^六金^六よ^六一^六打^六た^六る^六物^六と^六い^六ふ^六り
^堀も^六よ^六遊^六盤^六は^六な^六ら^六し^六た^六新^六の^六如^六き^六の^六姿^六を^六特

撰徒をいふと山崎人の物持たるよりいふ所
多し。兼盛集子孫より山崎に逢ふまで
繪をかへり

旅かすりをもよほ空か早く山崎山
と伝へり

一寸急なり 末生の交り

山崎の物持のわたり此作と
催馬樂 相材 相樂郡ナリ
山崎の物持のわたり此作と



山崎の物持のわたり此作と
催馬樂 相材 相樂郡ナリ
山崎の物持のわたり此作と



